

2019豊岡市
まちづくりアンケート
～政策モニタリング調査～

結果報告書

～戦略や事務事業を改善するためのヒント～

2019年3月

豊岡市 政策調整課

目次

1	調査概要.....	1
2	回答者の属性.....	2
3	自然と環境について（問 8～問 11）.....	6
5	環境と経済について（問 19～問 20）.....	17
6	健康と運動について（問 21～問 25）.....	20
7	公共交通について（問 26～問 29）.....	25
8	食と農業について（問 30～問 31）.....	30
9	地域の歴史、伝統、文化芸術（問 32～問 37）.....	32
10	防災について（問 38～問 44）.....	38
11	まちづくりと観光について（問 45～問 48）.....	45
12	統計基礎用語解説.....	47
13	調査票.....	48

1 調査概要

(1) 戦略的政策評価におけるアンケートの役割

戦略的政策評価では、市民ワークショップ等においてセオリー評価（戦略体系図の改善）やプロセス評価（事務事業の実施方法の変更等）を実施する。その際に参考にする情報の1つがアンケートによって得た情報である。

(2) 「2019豊岡市まちづくりアンケート～政策モニタリング調査～」(以下「本アンケート」という。)の作成経緯

評価のための情報を得るためには、戦略目的等が示す社会状態（市民の知識や行動など）を把握する必要がある。したがって、戦略目的等が示す内容とアンケートの質問文が問う内容とを一致させる必要があるため、当該戦略体系図を最も理解している者が質問文を作成するのが適切である。そこで、戦略体系図の所管課職員が社会調査の研修を受講した上で質問文の原案を作り、専門家の修正を経て本アンケートを作成した。

(3) 調査内容

ア 実施概要

本調査の実施概要は次表に示すとおりである。

調査対象	市内在住の18歳以上4,000人を無作為抽出 ※前回調査より質問数が増え、回収率の低下が予想されたため、調査対象を1,000人増やした。
調査方法	郵送配布及び郵送回収による
調査日	平成31年1月22日～2月6日（2月15日受付分まで有効票）
回収数	1,847票（回収率46.2%）
実施主体	豊岡市（政策調整部政策調整課行政改革係）

イ 集計及び分析

(ア) 集計及び分析は、「無回答」を除いた有効回答を対象に算出している。

(イ) 集計結果は小数点第2位（又は第3位）を四捨五入しており、表示の比率の合計が100%にならない場合がある。

(ウ) 通年の比較を行うためデータクリーニングを行った結果、過去の集計結果と誤差が生じている。

(エ) 本分析の中では10代と20代を「若年層」、30代～60代を「壮年層」及び70代と80代以上を「老年層」としている。

(4) 協力

本アンケート分析は、北大路信郷氏（㈱政策情報システム研究所代表取締役・明治大学名誉教授）の助言を得て作成した。

2 回答者の属性

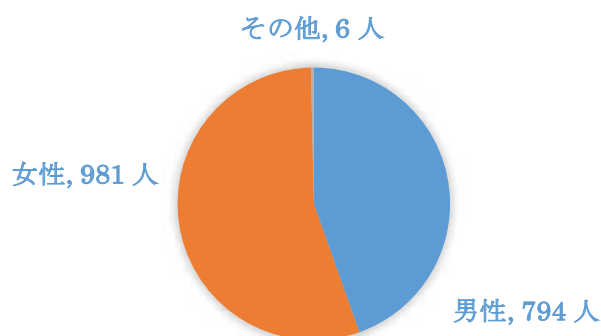
(1) 性別（表 1 及び図 1）

回答者の性別は、男性794人（44.6%）、女性981人（55.1%）、その他6人（0.3%）であった。2015年国勢調査と比較すると、本アンケートの回答者の割合は男性が低く、女性は高い。本アンケートでは性別の選択肢に「その他」を設けている。これを選択した回答者は6人（0.3%）である。

<表 1：国勢調査との比較> 単位：%

性別	本アンケート	2015国勢調査
男	44.6	48.0
女	55.1	52.0
その他	0.3	—

図 1：回答者の性別



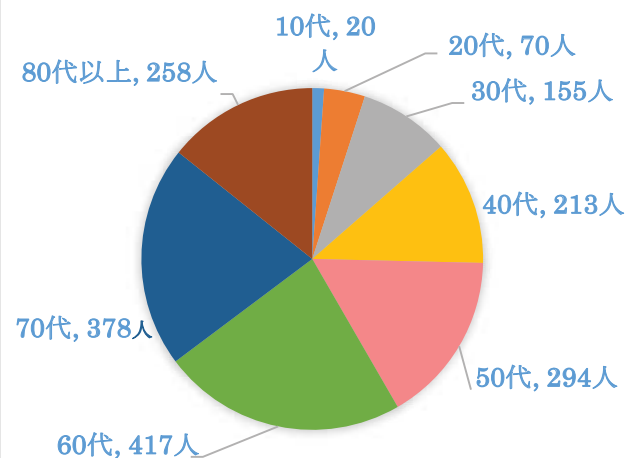
(2) 年齢（表 2 及び図 2）

回答者の年齢層は、10代が20人（1.1%）、20代が70人（3.9%）、30代が155人（8.6%）、40代が213人（11.8%）、50代が294人（16.3%）、60代が417人（23.1%）、70代が378人（20.9%）、80代以上が258人（14.3%）である。2015年国勢調査と比較すると、本アンケートの50代以上の回答者の割合は高い。

<表 2：国勢調査との比較> 単位：%

年齢層	本アンケート	2015国勢調査
10代	1.1	1.6
20代	3.9	8.2
30代	8.6	12.6
40代	11.8	15.4
50代	16.3	15.4
60代	23.1	18.8
70代	20.9	14.4
80代以上	14.3	13.6

図 2：回答者の年齢層別人数



(3) 職業（表3）

回答者の職業は、「無職（年金暮らし含む）」が最も多い（31.6%）。これは、回答者の中で老年層が多いためであると考えられる。

<表3：回答者の職業>

職業	回答者数（人）	割合（%）
会社員、会社役員	409	23.1
自営業（農業含む）	220	12.4
公務員	115	6.5
パート、アルバイト	225	12.7
専業主婦	172	9.7
学生	27	1.5
NGO、NPO	4	0.2
無職（年金暮らし含む）	560	31.6
その他	39	2.2
合計	1,771	100.0

(4) 居住地域（表4）

回答者が住んでいる地域は豊岡地域（47.1%）が最も多い。2015年国勢調査と比べると、豊岡地域以外の回答者の割合が高い。

<表4：回答者の居住地域>

居住地域	回答者数（人）	割合（%）	2015国勢調査（%）
豊岡	848	47.1	52.7
城崎	139	7.7	4.3
竹野	115	6.4	5.5
日高	379	21.1	20.2
出石	220	12.2	12.1
但東	98	5.5	5.2
合計	1,799	100.0	100.0

(5) 年齢層別の家族構成（表5）

回答者の家族構成を年齢構成別にみると、70代夫婦のみの世帯の割合（43.7%）が高くなっている。80代以上においては、夫婦のみの世帯（25.0%）と二世代の世帯（29.8%）の割合が高くなっている。

<表5：回答者の年齢層別の家族構成>

年代		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と 未成年の 子ども	ひとり親 と未成年の 子ども	二世代	三世代	その他	合計
10代	人数(人)	1	0	9	0	3	7	0	20
	割合(%)	5.0	0.0	45.0	0.0	15.0	35.0	0.0	100.0
20代	人数(人)	9	3	10	0	22	21	3	68
	割合(%)	13.2	4.4	14.7	0.0	32.4	30.9	4.4	100.0
30代	人数(人)	7	11	60	7	36	23	10	154
	割合(%)	4.5	7.1	39.0	4.5	23.4	14.9	6.5	100.0
40代	人数(人)	6	19	80	3	52	46	6	212
	割合(%)	2.8	9.0	37.7	1.4	24.5	21.7	2.8	100.0
50代	人数(人)	22	70	27	2	110	45	16	292
	割合(%)	7.5	24.0	9.2	0.7	37.7	15.4	5.5	100.0
60代	人数(人)	44	158	4	1	128	52	30	417
	割合(%)	10.6	37.9	1.0	0.2	30.7	12.5	7.2	100.0
70代	人数(人)	35	163	3	1	92	50	29	373
	割合(%)	9.4	43.7	0.8	0.3	24.7	13.4	7.8	100.0
80代 以上	人数(人)	46	63	1	1	75	48	18	252
	割合(%)	18.3	25.0	0.4	0.4	29.8	19.0	7.1	100.0

(6) 地域別の住居形態（表 6）

回答者の多くが持ち家の一戸建てに住んでいる（87.5％）。地域別にみると、豊岡地域及び出石地域で、賃貸の集合住宅に住んでいる回答者の割合が高い（9.2％及び8.2％）。

<表 6：回答者の地域別の住居形態>

地域		持ち家		賃貸		社宅・寮・シェアハウス等	その他	合計
		一戸建て	集合住宅	一戸建て	集合住宅			
豊岡	人数（人）	711	6	35	78	9	8	847
	割合（％）	83.9	0.7	4.1	9.2	1.1	0.9	100.0
城崎	人数（人）	126	1	3	3	3	3	139
	割合（％）	90.6	0.7	2.2	2.2	2.2	2.2	100.0
竹野	人数（人）	101	0	5	2	1	6	115
	割合（％）	87.8	0.0	4.3	1.7	0.9	5.2	100.0
日高	人数（人）	352	1	8	16	1	0	378
	割合（％）	93.1	0.3	2.1	4.2	0.3	0.0	100.0
出石	人数（人）	191	1	5	18	1	4	220
	割合（％）	86.8	0.5	2.3	8.2	0.5	1.8	100.0
但東	人数（人）	91	1	2	1	0	3	98
	割合（％）	92.9	1.0	2.0	1.0	0.0	3.1	100.0
合計	人数（人）	1,572	10	58	118	15	24	1,797
	割合（％）	87.5	0.6	3.2	6.6	0.8	1.3	100.0

(7) 地域別の回答者家族の子どもの有無（表 7）

同居家族に高校生以下の子どもがいる回答者は、地域別にみると豊岡地域が最も多く（236人）、子どもがいる回答者の中で、同居家族の中に小学生以下の子どもがいる回答者が最も多い（307人）。

<表 7：地域別の回答者家族の子どもの有無>

単位：人

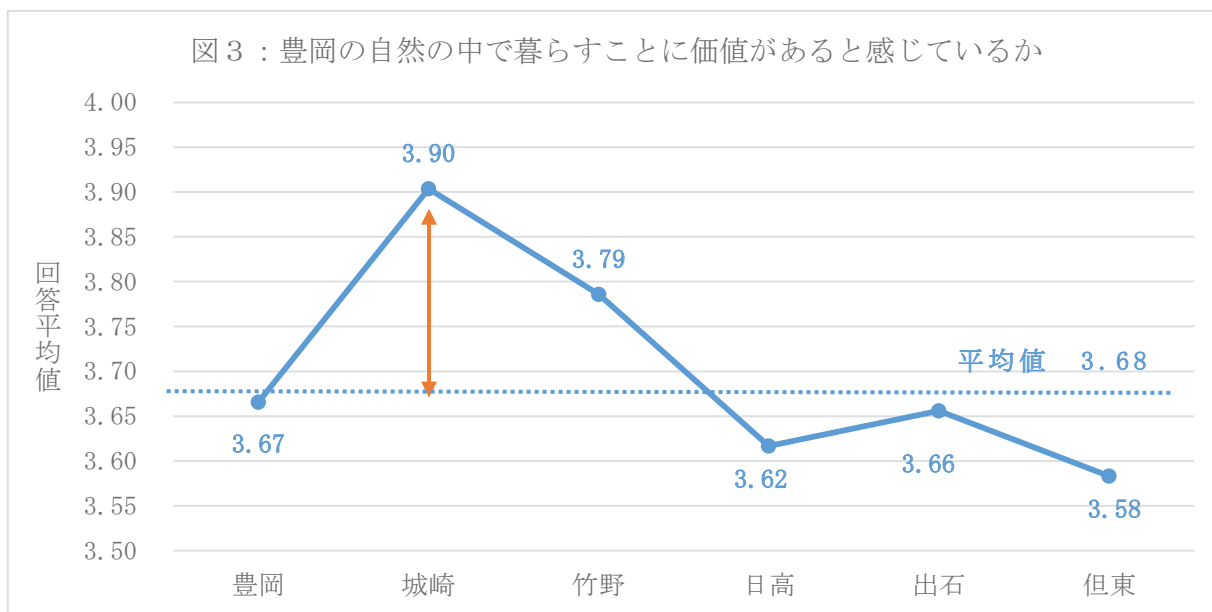
地域	子ども有	小学生以下の子ども有り	中学生の子ども有り	高校生の子ども有り
豊岡	236	163	65	70
城崎	25	15	5	11
竹野	26	18	10	9
日高	100	63	37	37
出石	65	42	21	19
但東	12	6	3	5
計	464	307	141	151

3 自然と環境について（問8～問11）

問8から問11までは、上位目的「自然と折り合う暮らしがまちに根付いている」に関する設問である。

(1) 問8『あなたは、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか』は、戦略目的「豊岡の自然を楽しみ、自然の中で暮らす価値を知っている市民が増えている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図3のとおりである。

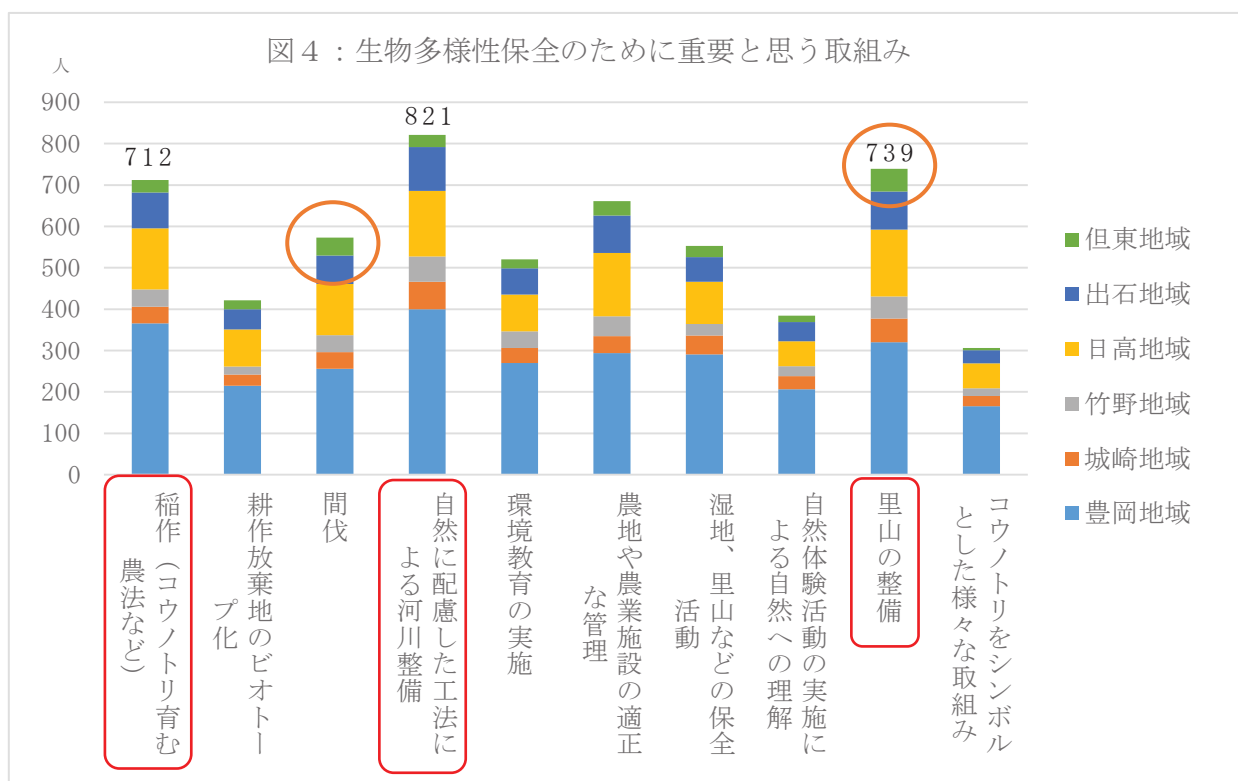
城崎地域は豊岡地域（ $t=2.60$ $p<0.05$ ）、日高地域（ $t=2.85$ $p<0.01$ ）、出石地域（ $t=2.24$ $p<0.05$ ）及び但東地域（ $t=2.36$ $p<0.05$ ）に比べ統計的に有意に高い。城崎地域は、他の地域よりも戦略目的の状態に近いと言える。



(2) 問9及び問10は、手段01「市民が、豊岡のコウノトリをシンボルとした生物多様性の保全や地球温暖化対策の必要性を理解し、実践している」状態を測定する設問である。

問9『あなたは、生物多様性保全のためにどのような取組みが重要だと思いますか』の結果を図4に示した。回答者数が多い取組みは、「自然に配慮した工法による河川整備」（821人）、「里山の整備」（739人）、「稲作（コウノトリ育む農法など）」（712人）などである。

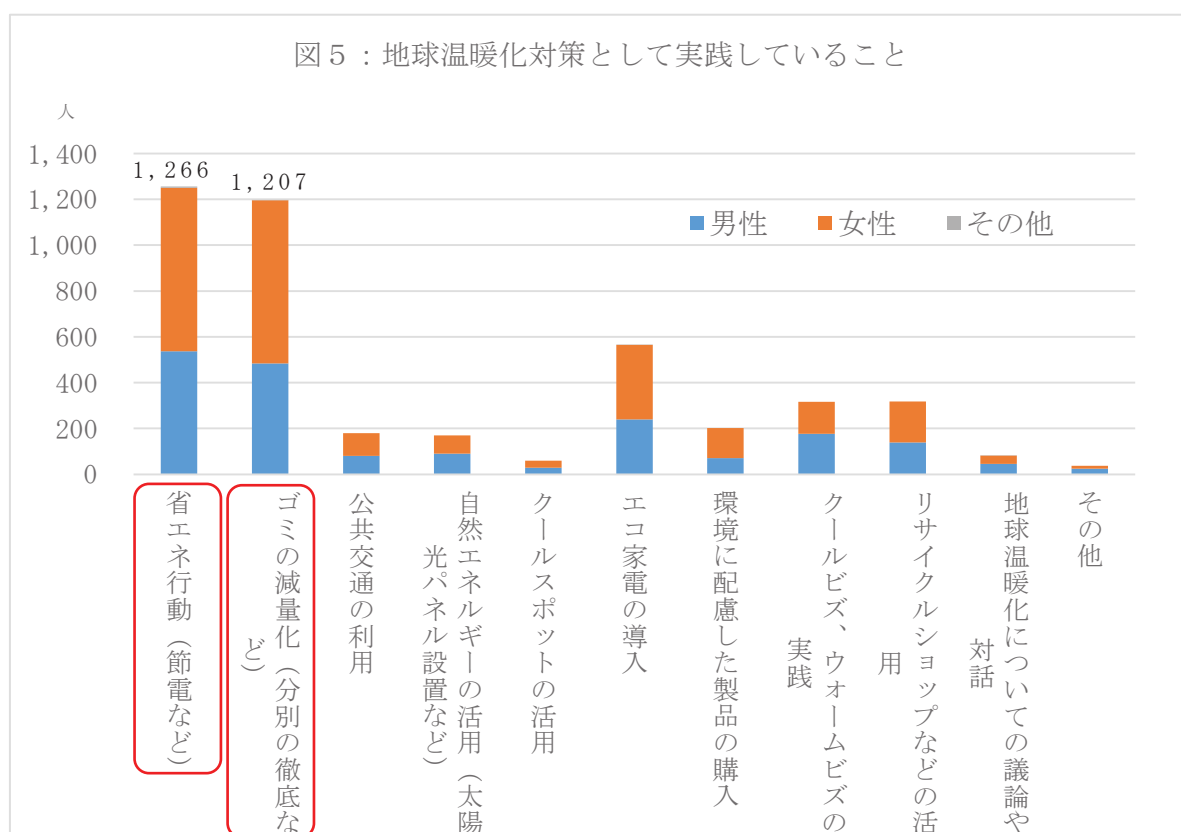
地域別にみると、但東地域では「間伐」及び「里山の整備」の回答者の割合が高く（但東：34.9% 全体：22.8%）、但東地域の回答者の3人に1人以上は「間伐」及び「里山の整備」を重要と考えており、但東地域の生物多様性保全における山林の重要性が示唆されていると思われる。



問10『あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか』の結果を図5に示した。回答の多い取組みは「省エネ行動（節電など）」（1,266人）及び「ゴミの減量化（分別の徹底など）」（1,207人）である。

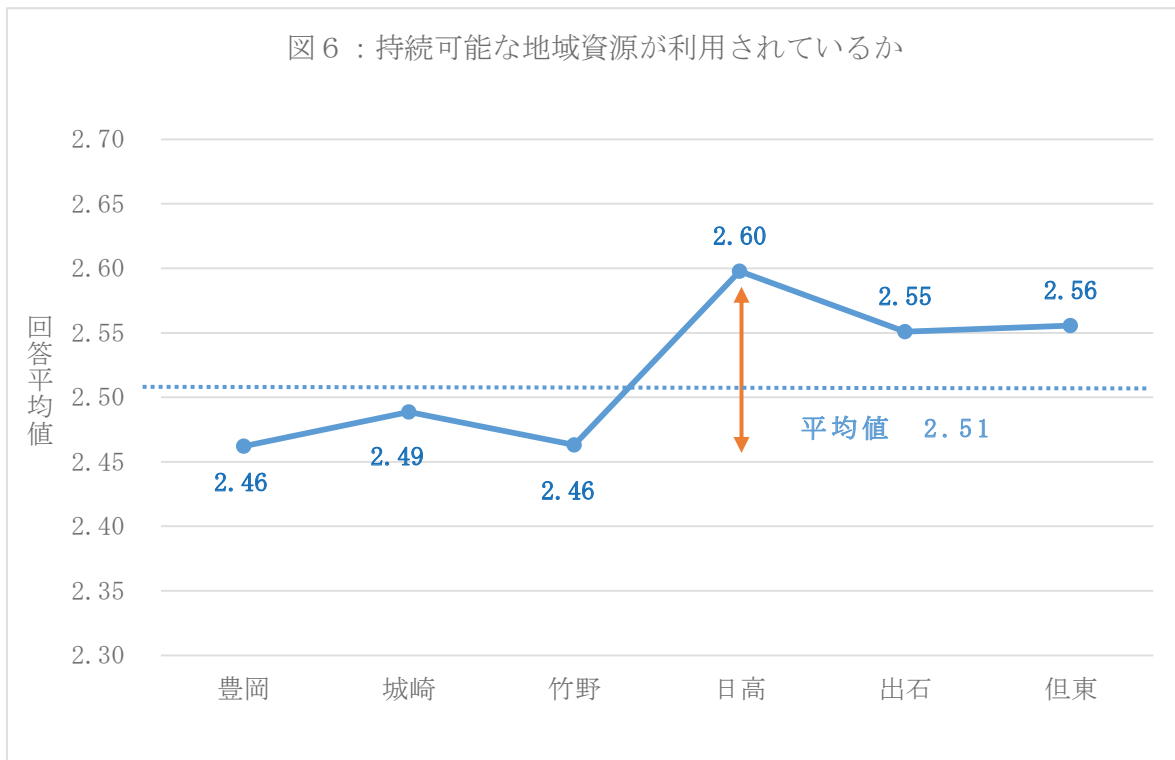
性別でみた場合、男性は「自然エネルギーの活用（太陽光パネル設置など）」（カイ2乗値=5.30(df=1、 $p<0.05$ ））及び「クールビズ、ウォームビズの実践」（カイ2乗値=20.389(df=1、 $p<0.01$ ））の回答者数が多く、女性と比べて統計的に有意な差がみられる。

女性は「省エネ行動（節電など）」（カイ2乗値=5.39(df=1、 $p<0.05$ ））、
「ゴミの減量化（分別の徹底など）」（カイ2乗値=27.75(df=1、 $p<0.01$ ））
及び「環境に配慮した製品の購入」（カイ2乗値=9.198(df=1、 $p<0.01$ ））
において回答者数が多く、男性と比べて統計的に有意な差がみられる。



(3) 問11『あなたは、森林資源（木質バイオマス）や自然エネルギー（太陽光、風力、水力）などの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか』は、手段03「持続可能な地域資源の利用が促進されている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図6のとおりである。

日高地域の回答は、豊岡地域に比べ統計的に有意に高く（ $t=2.41$ $p<0.05$ ）、日高地域は豊岡地域に比べて手段03の状態に近いと言える。



(4) 問8で測定した戦略目的と問9から問11で測定した手段との関係について分析する。

問8と問9の回答に関してカイ2乗検定を実施した結果、問9で「自然に配慮した工法による河川整備」、「里山の整備」及び「稲作（コウノトリ育む農法など）」を重要だと考えている人は、問8に肯定的な回答（ある程度～とても感じている）をしている（カイ2乗値=14.30～85.05（ $df=4$ 、 $p<0.01$ ））。

問8と問10の回答に関してカイ2乗検定を実施した結果、問10で「省エネ行動（節電など）」及び「ゴミの減量化（分別の徹底など）」を実践している人は、問8に肯定的な回答をしている（カイ2乗値=28.84、27.08（ $df=4$ 、 $p<0.01$ ））。

また、問8と問11の回答との間に相関がみられ（ $r=0.15$ 、 $p<0.01$ ）、持続可能な地域資源が利用されていると思う人は、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていると言える。

以上のことから、戦略目的と手段01及び手段03には相関的（一方が上昇すると他方も上昇する）な関係があり、手段の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

4 子育てと教育について（問 12～問 18）

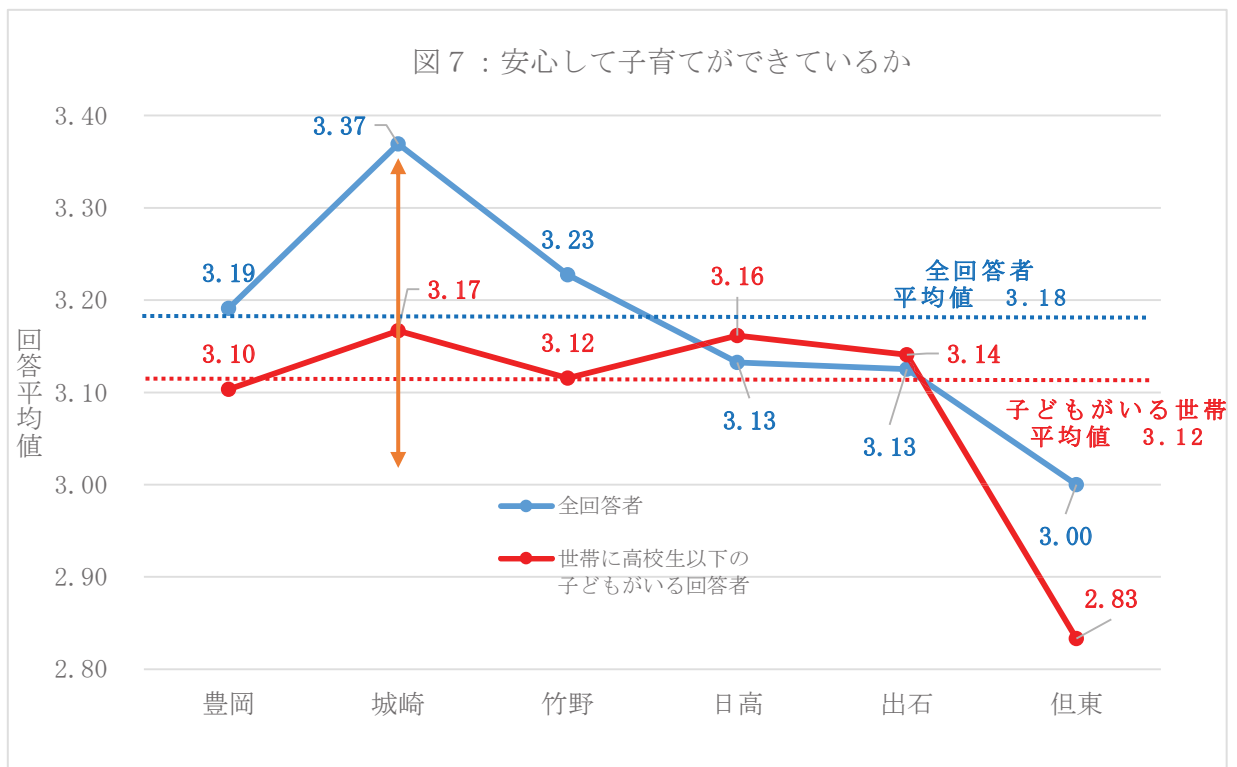
問12から問15までは、上位目的「豊岡で子どもを産み育てたい、豊岡で子育てをして良かったと思う人が増えている」に関する設問で、問16から問18までは、上位目的「子どもたちが地域での愛着を育み、豊岡で世界と出会っている」に関する設問である。

- (1) 問12『あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていると思いますか』は、戦略目的「まちに子育てへの気遣いがあふれ、子育ての不安が軽減されている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図7（青色折れ線）のとおりである。

地域別では、城崎地域と但東地域との間に統計的に有意な差がある（ $t=2.99$ $p<0.01$ ）ため、城崎地域は但東地域に比べ戦略目的の状態に近いと言える。

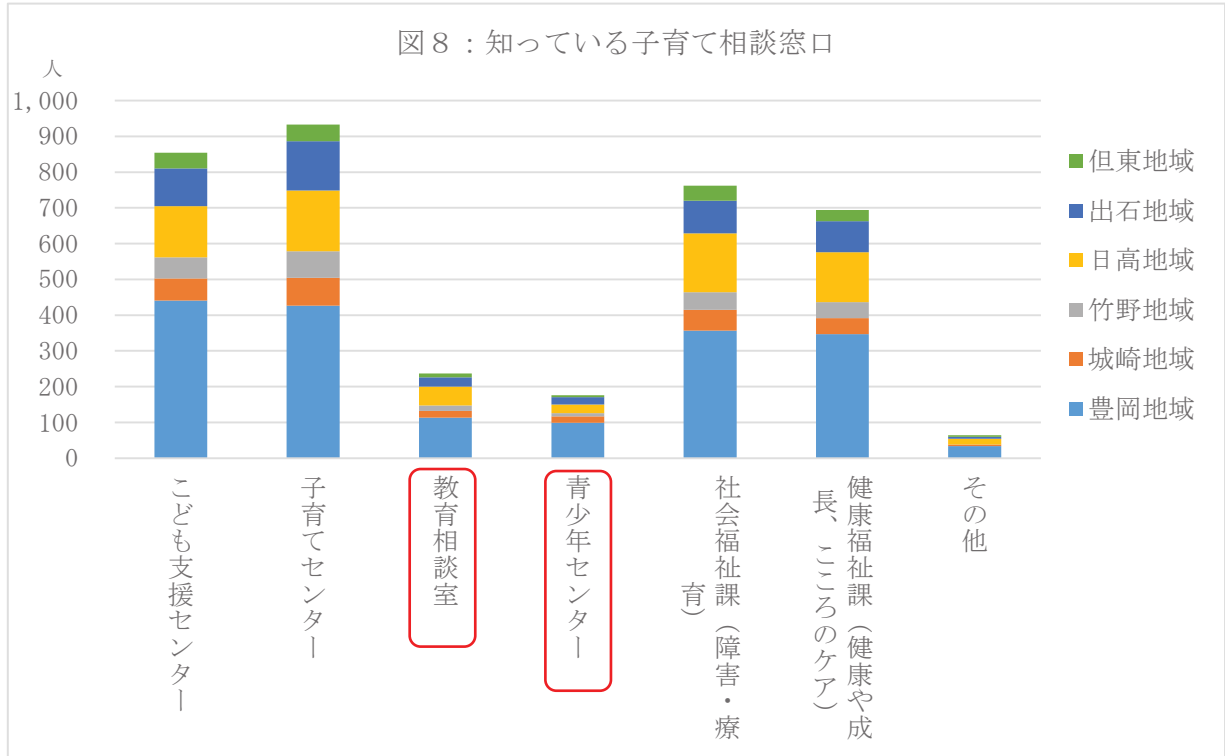
子どもがいる世帯のみをみるために、世帯に高校生以下の子どもがいる回答者について地域別の回答平均値を図7（赤色折れ線）に示した。母集団が少ないため統計的に有意な差がある地域は存在しないが、全回答者と同じ地域別の傾向がみられる。

なお、全回答者については男女別で有意な差がみられ（ $t=4.06$ $p<0.01$ ）、女性の方が安心して子育てできると回答しており、男性の周囲（男性が感じる周囲の状態）より女性の周囲（女性が感じる周囲の状態）の方が戦略目的の状態に近いと言える。



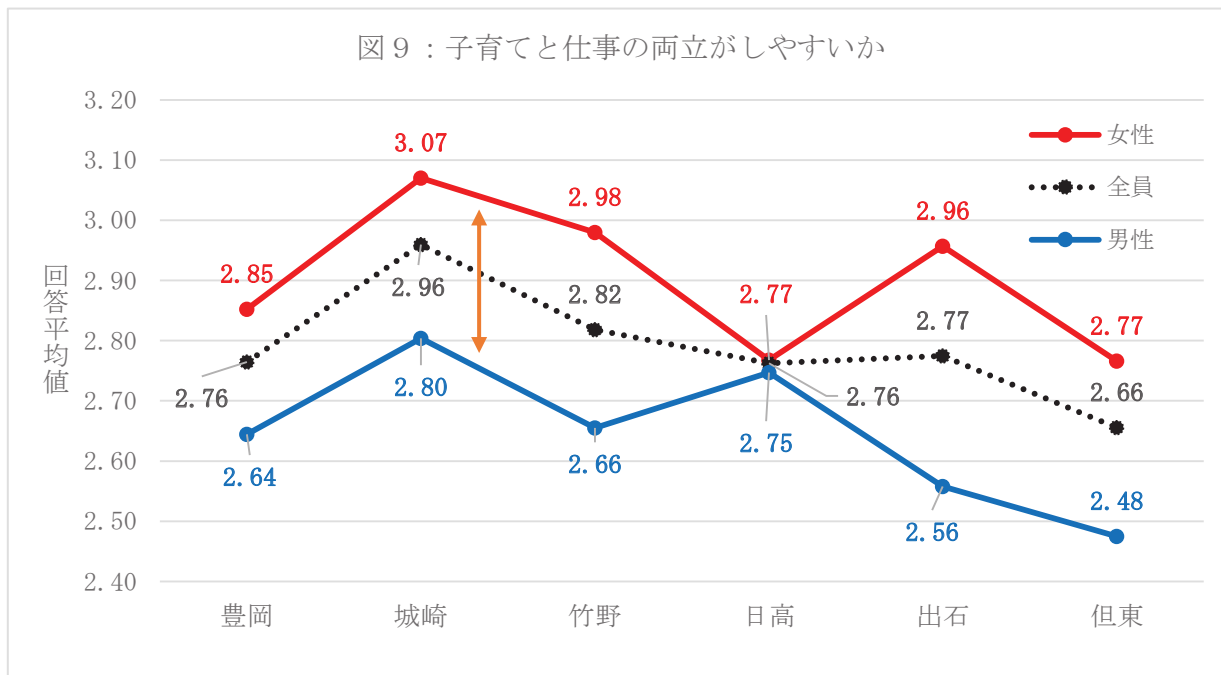
(2) 問13『子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか』は、手段06「子育てに不安や困難を抱えている家庭が支援を受けられる」状態を測定する設問であり、その結果は図8のとおりである。

「教育相談室」（237人）及び「青少年センター」（176人）を知っている回答者は他に比べて少ない（全回答者のうち15.3%及び11.4%）。

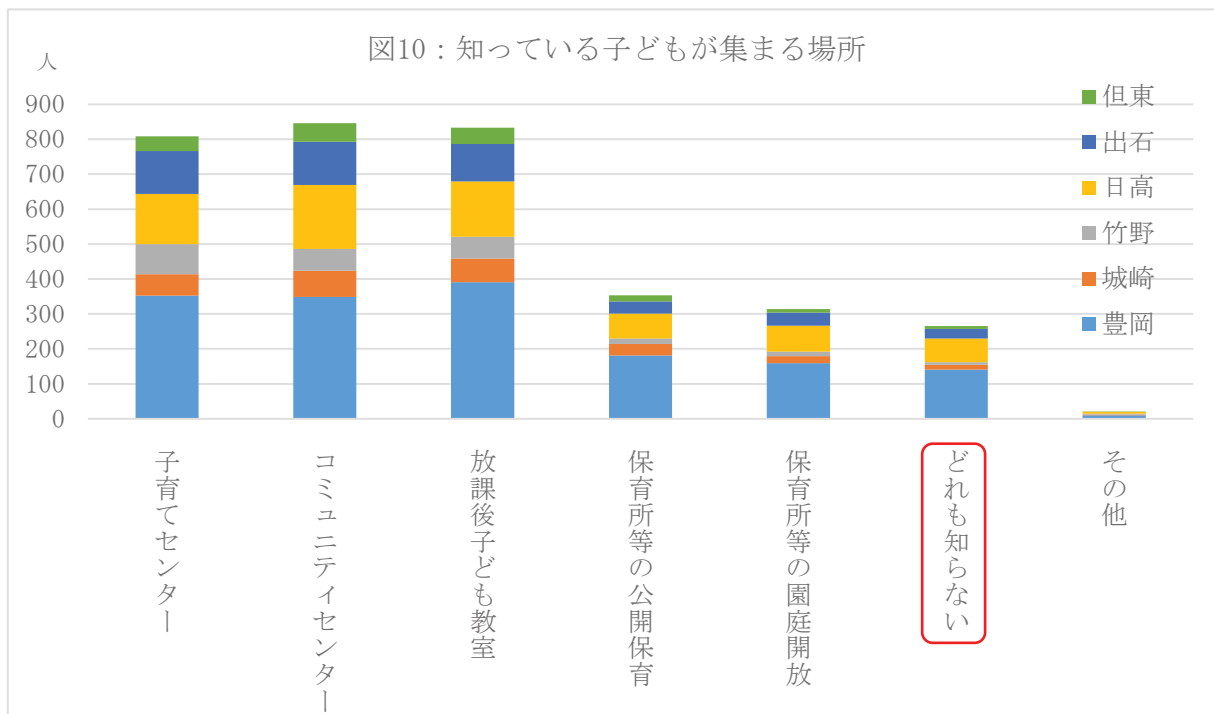


(3) 問14『豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか』は、手段03「子育てと仕事を両立することができている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図9（黒色折れ点線）のとおりであり、地域別で統計的に有意な差はみられない。

男女別にみた場合は、統計的に有意な差がみられ（ $t=4.67$ $p<0.01$ ）、女性の方が男性よりも子育てと仕事の両立がしやすいと回答している。なお、地域別の男性と女性の平均値は図9のとおりである（男性：青色折れ線、女性：赤色折れ線）。



(4) 問15『子ども達が集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか』は、手段02「子どもたちの居場所がある」状態を測定する設問であり、その結果は図10のとおりである。「どれも知らない」と回答したのは、265人で全回答者の15.7%である。そのうち、高校生以下の子どもがいる世帯は40人で、高校生以下の子どもがいる回答者の8.8%が「どれも知らない」と回答している。



(5) 問12で測定した戦略目的と問13から問15で測定した手段との関係について分析する。

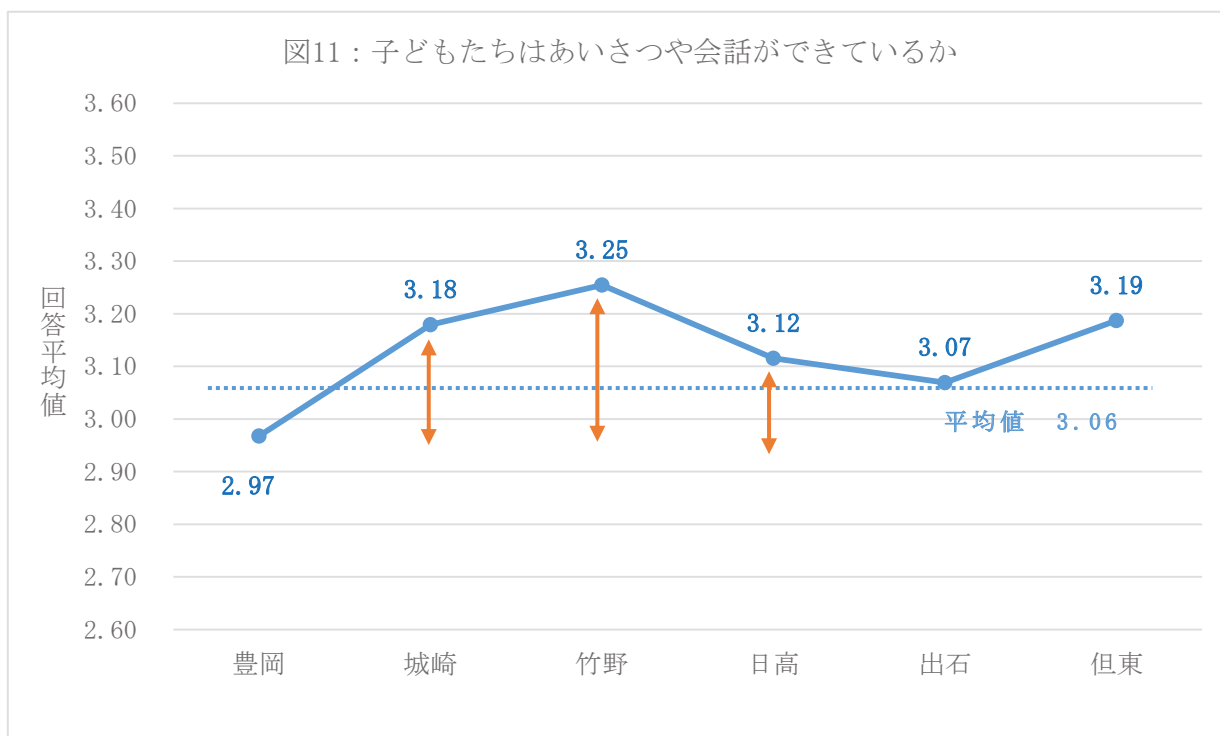
問12の回答と問13の「知っている相談先の数」との間には、正の相関がみられ ($r=0.07$ 、 $p<0.01$)、子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口を知っている人ほど、安心して子育てしている傾向があると言える。

問12と回答と問14の回答には正の相関があり ($r=0.57$ 、 $p<0.01$)、子育てと仕事の両立がしやすいと答える人ほど、安心して子育てしていると言える。

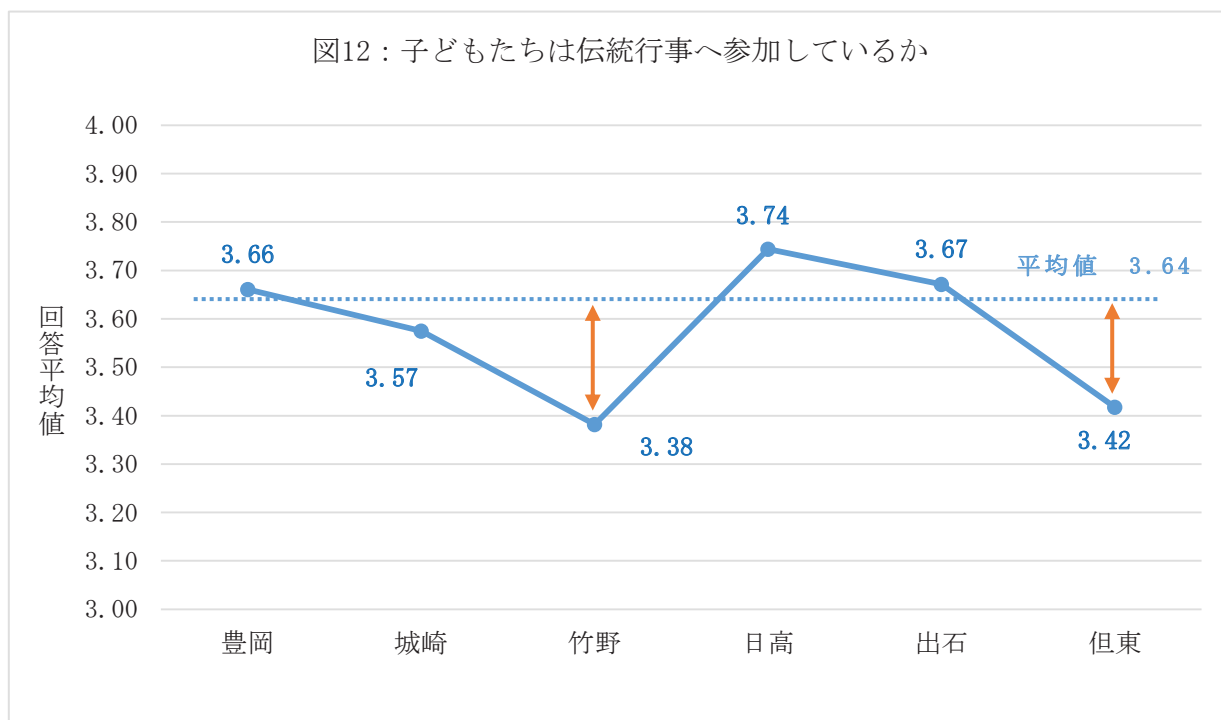
問12と問15の「知っている交流場所の数」との間には、正の相関がみられ ($r=0.09$ $p<0.01$)、子ども達が集まって交流できる場所を知っている人ほど、安心して子育てしている傾向があると言える。

これらのことから、戦略目的と手段01、手段03及び手段06には相関的（一方が上昇すると他方も上昇する）な関係があり、手段の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

(6) 問16『あなたのまわりの子どもたち（小学生・中学生）は、まわりの大人たちとのあいさつや会話ができますか』は、手段04「子どもたちが多様な人々とコミュニケーションできる力を育てている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図11のとおりである。城崎地域、竹野地域及び日高地域は豊岡地域と統計的に有意な差があり（ $t=2.71\sim 2.17$ $p<0.05$ ）、3つの地域は豊岡地域と比べ、肯定的な回答をしている。このことから、3つの地域は豊岡地域比べて手段04の状態に近いと言える。

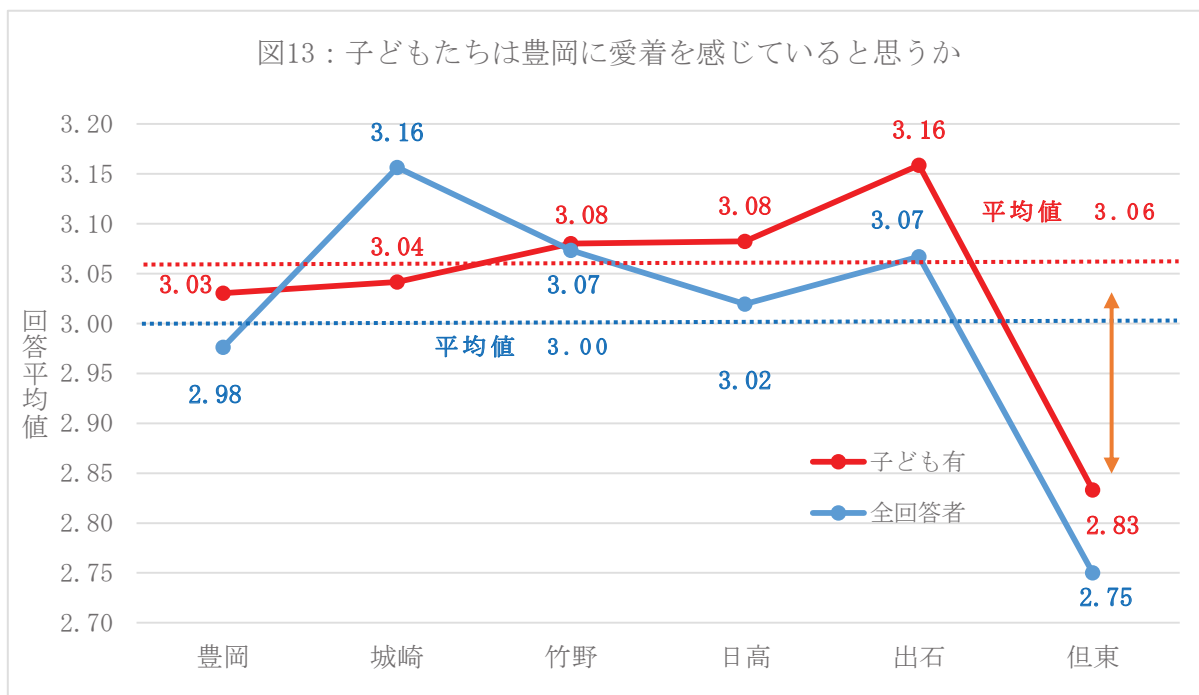


(7) 問17『あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち（小学生・中学生）はどのくらい参加していますか』は、手段0102「地域でふるさとについて知る機会が増えている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図12のとおりである。竹野地域及び但東地域は、豊岡地域（竹野地域のみ： $t=2.41$ $p<0.05$ ）、日高地域（ $t=2.96$ 、 2.30 $p<0.05$ ）及び出石地域（竹野地域のみ： $t=2.21$ $p<0.05$ ）と比べ統計的に有意な差があり、これらの地域の間で、伝統行事に子どもが参加している程度に差がある。このためこれらの地域の間では、手段0102の状態に差が生じていると言える。



(8) 問18『あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか』は、戦略目的「豊岡に住んでいることを誇りに思う子どもが増えている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図13のとおりである（青色折れ線）。但東地域と他の地域との間には統計的に有意な差があり（ $t=3.63 \sim 2.38$ $p<0.05$ ）、但東地域は、他の地域に比べて問18に対しては否定的な回答をしている。また、統計的に有意な差はみられないものの、高校生以下の子どもがいる世帯でもほぼ同様の傾向がみられる（赤色折れ線）。これらのことから、但東地域は他の地域に比べ戦略目的の状態から遠いことが分かる。

性別でみた場合、女性と男性で統計的に有意な差がみられ（ $t=3.71$ $p<0.01$ ）、女性は男性より肯定的な回答をしている。



(9) 問18で測定した戦略目的と問16及び問17で測定した手段との関係について分析した。その結果、問18と問16（ $r=0.27$ $p<0.01$ ）及び問18と問17（ $r=0.24$ $p<0.01$ ）は正の相関があり、あいさつや伝統行事への参加に対して肯定的な回答をした人ほど、子ども達が愛着を感じていると思う傾向がみられる。

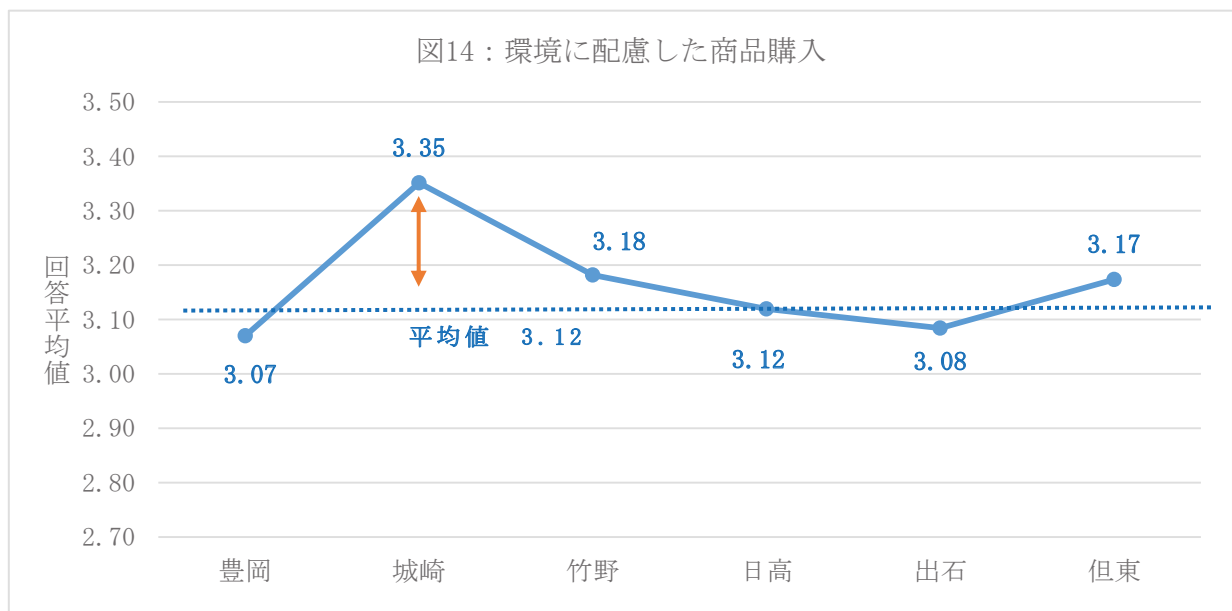
このことから、戦略目的と手段04及び手段0102には相関的（一方が上昇すると他方も上昇する）な関係があり、手段の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

5 環境と経済について（問19～問20）

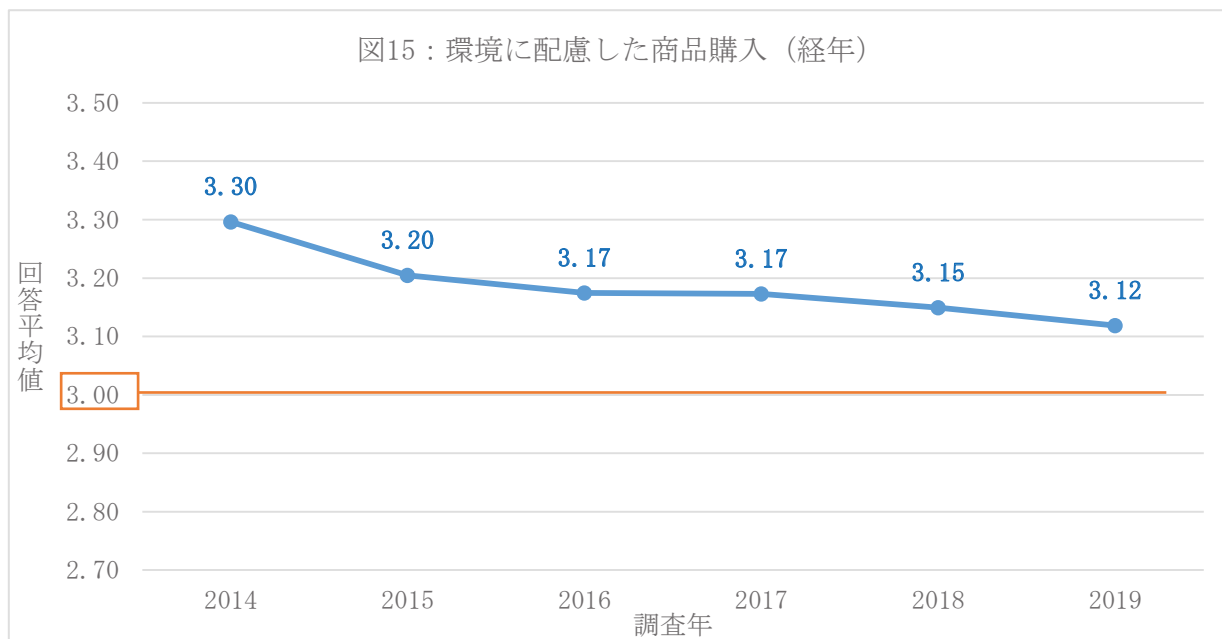
問19及び問20は、上位目的「環境と経済の共鳴が広がっている」に関する設問である。なお、この設問は2014年から実施しているアンケートと同様であるため、過去に実施した分との比較が可能である（全体の質問数が増加し、全く同様の条件ではないため、完全な比較ができるとまでは言えない）。

(1) 問19『日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していますか』は、戦略目的「環境経済への理解が深まっている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図14のとおりである。城崎地域は、豊岡地域（ $t=3.24$ $p<0.01$ ）、日高地域（ $t=2.66$ $p<0.01$ ）及び出石地域（ $t=2.71$ $p<0.01$ ）と統計的に有意な差があり、城崎地域は肯定的な回答をしている。このことから、城崎地域は他の地域よりも戦略目的の状態に近いと言える。

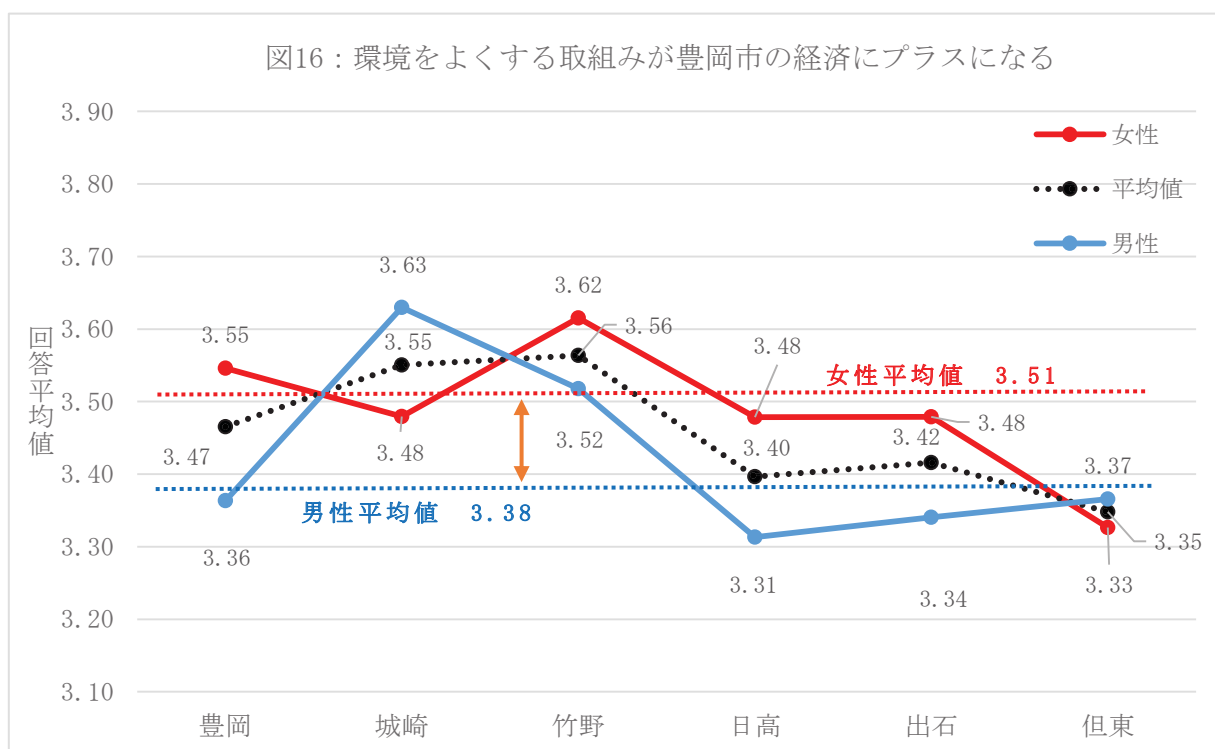
また、女性と男性との間にも統計的に有意な差がみられ（ $t=4.35$ $p<0.01$ ）、女性の方が男性より肯定的に回答する傾向にあると言える。



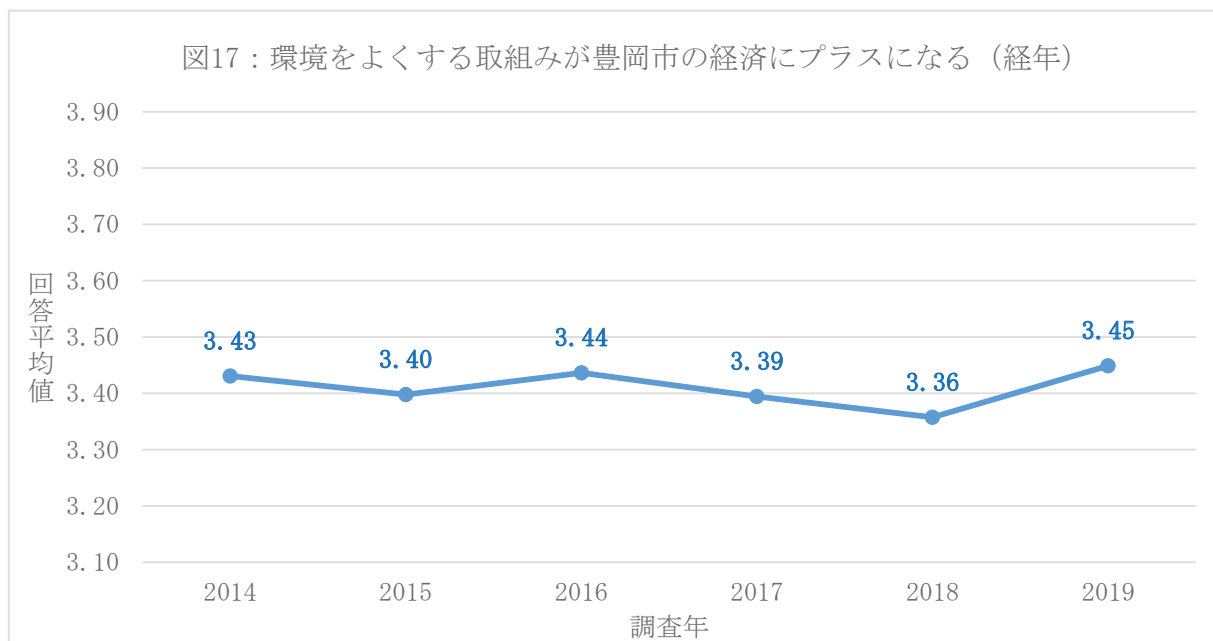
経年変化は図15のとおりである。回答の中央値（3.00）は越えているものの減少傾向にある。



(2) 問20『豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると感じますか』は、手段01「環境経済の考え方に共感する市民が増えている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図16のとおりである（全回答者を黒色折れ点線、男性を青色折れ線、女性を赤色折れ線）。地域別、年齢層別では統計的に有意な差みられないが、性別で統計的に有意な差があり（ $t=2.83$ $p<0.01$ ）、女性は男性よりも肯定的に回答している。



過去からの経年変化は図17のとおりである。

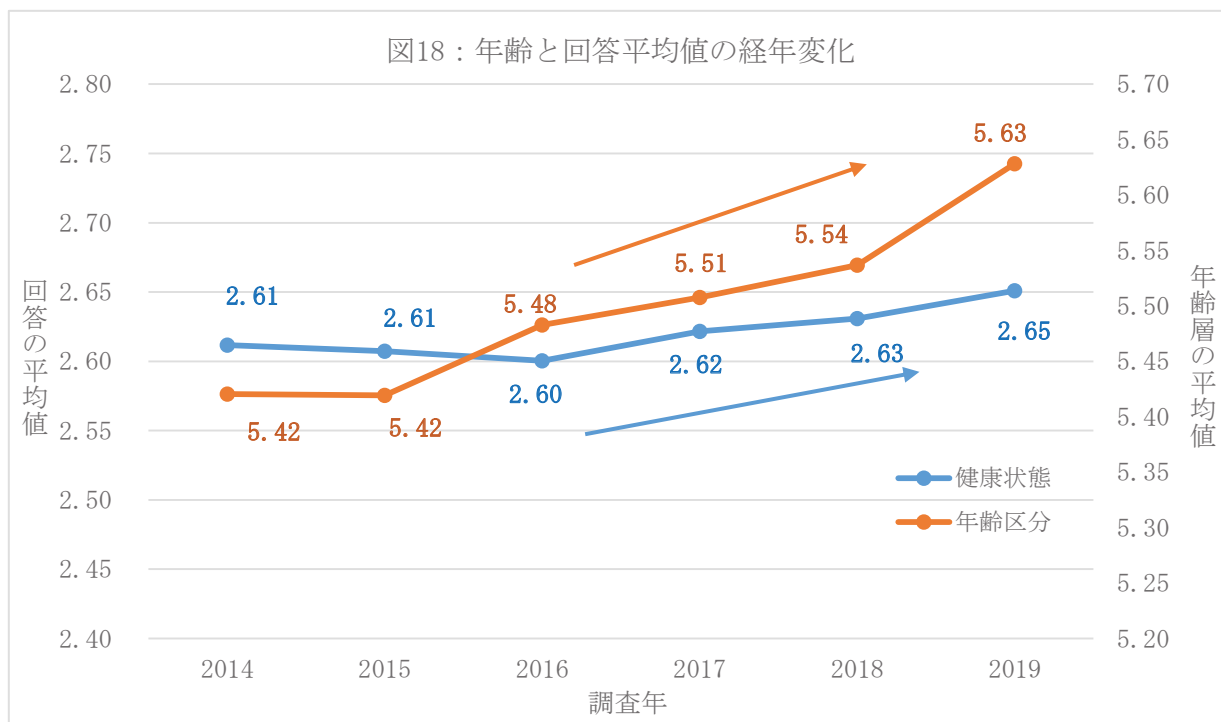


- (3) 問19で測定した戦略目的と問20で測定した手段01との関係について分析した。その結果、問19の回答と問20の回答との間には正の相関があり（ $r=0.30$ $p<0.01$ ）、環境をよくする取組みが豊岡市の経済にもプラスになると思う人ほど、日常生活で環境に配慮した商品意識して購入していると言える。
- このことから、戦略目的と手段01には相関的（一方が上昇すると他方も上昇する）な関係があり、手段の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

6 健康と運動について（問21～問25）

問21から問25は、上位目的「市民の健康寿命が延びている」に関する設問である。問21及び問22の設問は、2014年から実施しているアンケートと同様であるため、過去に実施した分との比較が可能である（全体の質問数が増加し、全く同様の条件ではないため、完全な比較ができるわけではありません）。

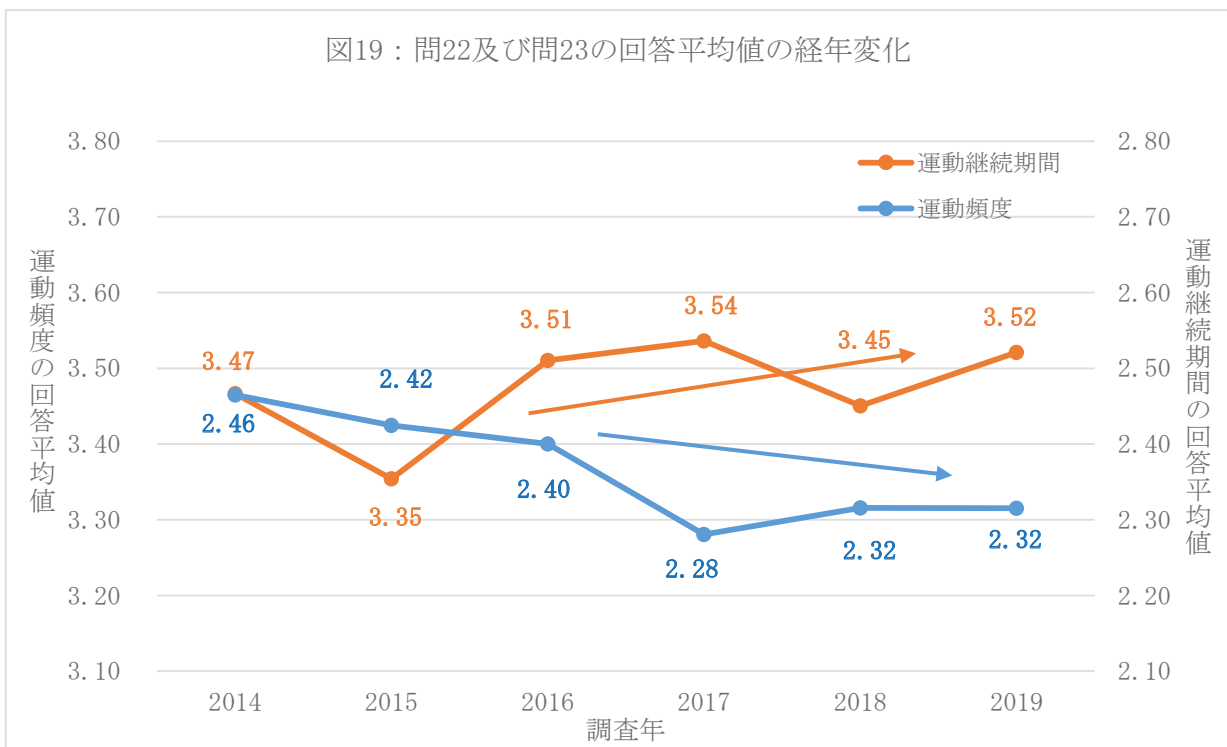
- (1) 問21『あなたは現在、自分が健康だと思いますか』は、上位目的の状態を測定する設問である。問21の回答及び回答者の年齢の経年の変化は、図18のとおりである（「年齢区分」を橙色折れ線、「健康状態」を青色折れ線）。回答者の年齢と年度との間には正の相関があり（ $r=0.04$ $p<0.01$ ）、経年で回答者の年齢層が高くなる傾向がある。健康状態は年度と正の相関があり（ $r=0.02$ $p<0.05$ ）、また2016年と2019年は統計的に有意な差があり（ $t=2.28$ $p<0.05$ ）、健康状態に肯定的な回答をしている人が増加している。これらのことから、回答者の高齢化は進んでいるものの、健康だと感じている人は増加しており、上位目的の状態に近づいてきていると言える。



(2) 問22『あなたは健康維持・増進のために運動（1日30分以上）をしていますか』は、戦略目的「「歩くこと」など体を動かす健康づくりに取り組む人が増加している」状態を測定する設問である。問22に肯定の回答をした回答者に対する設問である問23『その運動はどのくらい継続されていますか』は、手段03「体を動かす健康づくりを、楽しみながら習慣化できている」状態を測定する設問である。

それぞれの問に対する回答平均値の経年変化は図19（問22を「運動頻度」とし、青色折れ線、問23を「運動継続期間」とし、橙色折れ線）のとおりである。問22と年度及び問23と年度の間それぞれ相関があり（ $r=-0.04$ $p<0.01$ 、 $r=0.03$ $p<0.05$ ）、運動頻度は微減し、運動継続期間は微増にある。

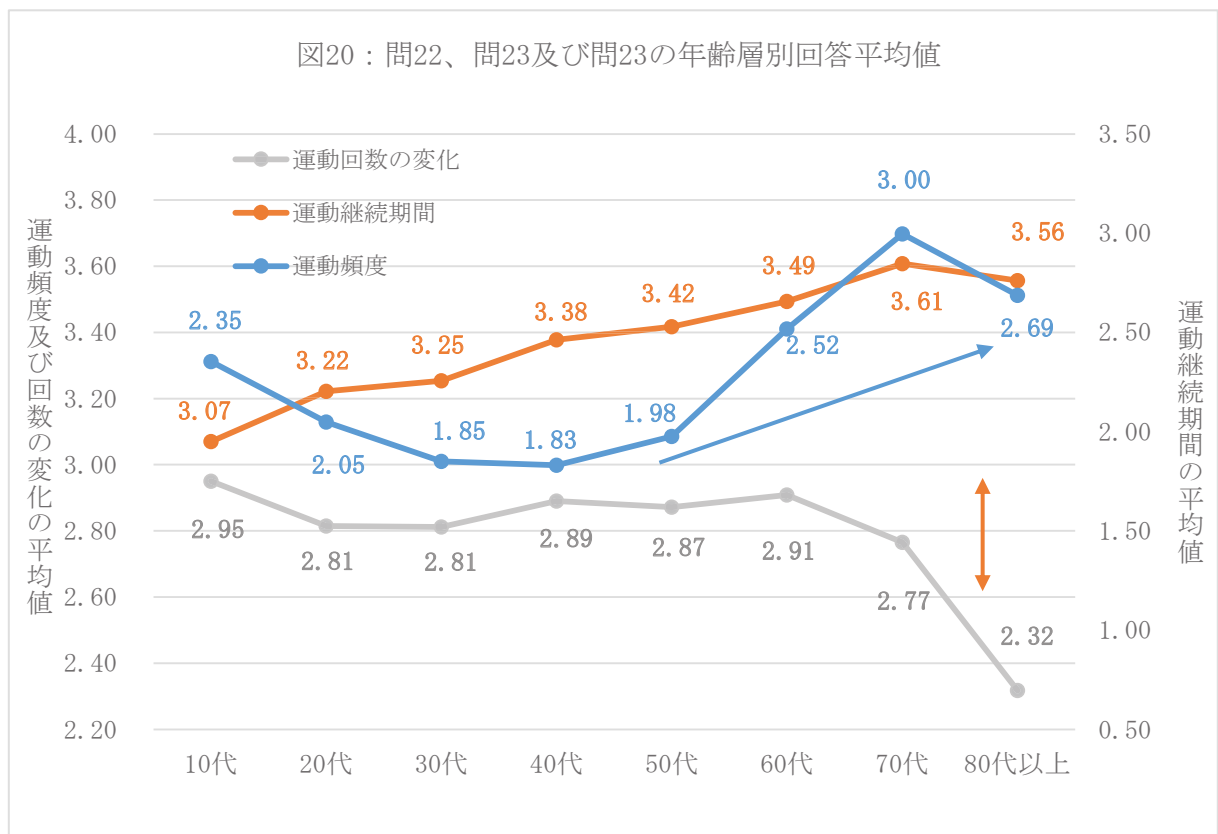
これらのことから、戦略目的の状態（運動頻度）からは微小に後退しているが、手段03の状態には近づきつつあると言える。



(3) 問24『あなたは1年前と比べて、「歩くこと」など体を動かす健康づくりをする回数に変化はありますか』は、手段02「楽しく体を動かす健康づくりの機会が増えている」状態を測定する設問である。問22「運動頻度」（青色折れ線）及び問23「運動継続期間」（橙色折れ線）と併せて、年齢層別の結果が図20のとおりである（問24を「運動回数の変化」とし灰色折れ線）。

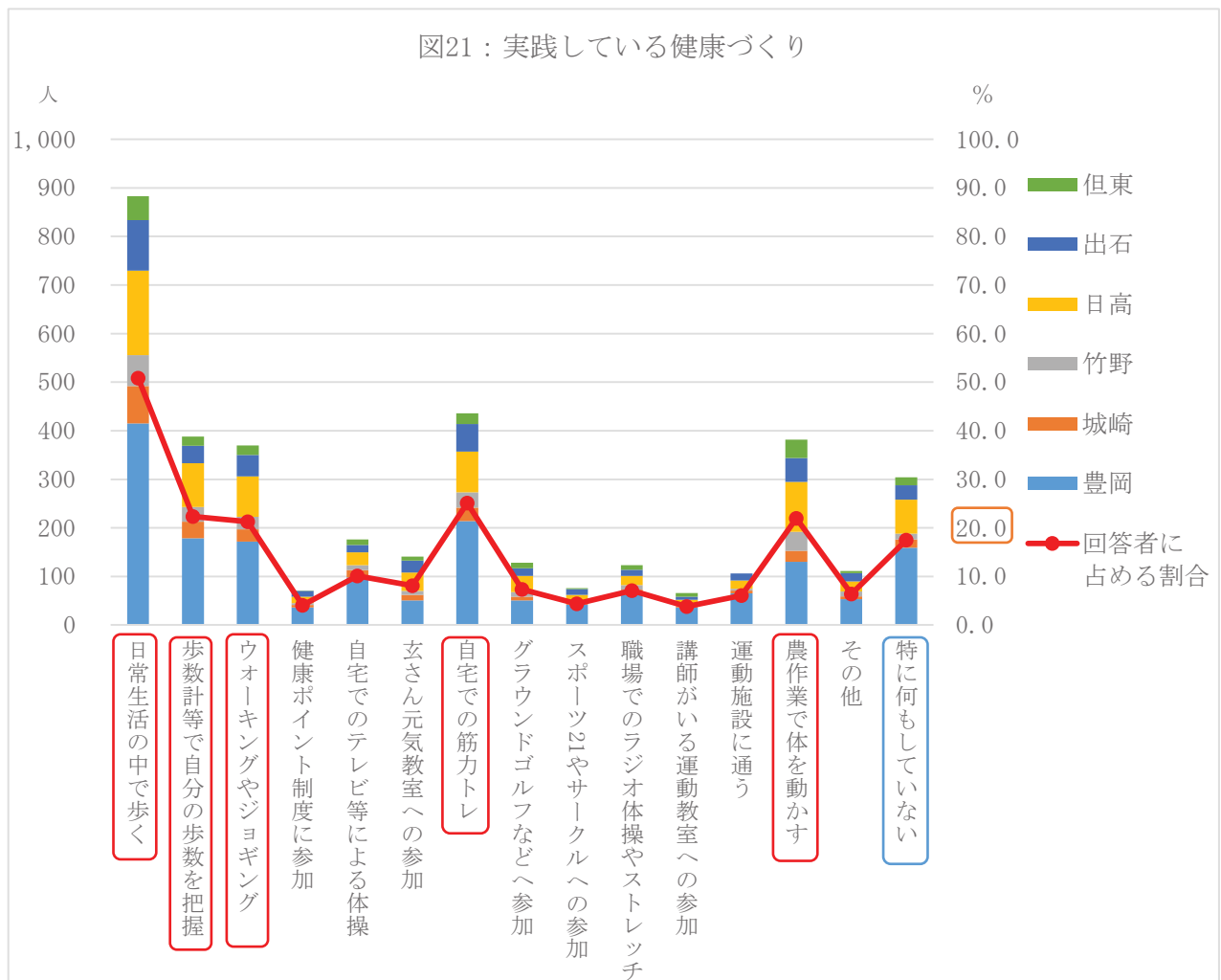
問24「運動回数の変化」について、老年層は若年層及び壮年層と統計的に有意な差があり（ $t=2.57, 6.91$ $p<0.05$ ）、70代以上の回答者の運動回数は減っている。このことから、60代以降の年齢で手段02の状態から次第に後退していくことが分かる。

問22及び問23については、それぞれ年齢と正の相関があり（ $r=0.23, 0.12$ $p<0.01$ ）、年齢が高い人ほど運動頻度は多く、継続して運動を続けている傾向がある。このことから、30代から50代が最も戦略目的の状態から遠いことが分かる。



(4) 問25『あなたは体を動かす健康づくりとして、どのようなことを実践していますか』は、戦略目的及び手段04「体を動かす健康づくりを支える仕組みや環境が整っている」状態について測定する設問で、回答者が実践している健康づくりは図21のとおりである（件数を地域別積み上げ棒グラフ、回答者に占める割合を折れ線）。回答者の中で20%を超える人が実践しているのは、「日常生活での歩くこと」や「自宅での筋トレ」などである。「日常生活の中で歩く」と回答している人は回答者の過半数を超えており、今後、戦略目的を継続的に測定する指標になるとと思われる。

一方で、「何もしていない」と回答する回答者も17.5%存在している。この「何もしていない」回答者の中では、年齢と回答者数に負の相関があり、若い年代で「何もしていない」と回答する人が多い傾向がある（ $r=0.17$ $p<0.01$ ）。問22及び問23の結果と合わせて考えると、若年層及び40代前後の年代が、戦略目的から遠い状態にあるということが分かる。



(5) 上位目的と戦略目的の関係をみるために、問21と問22との関係を調べた。その結果、問21と問22との間に正の相関がみられ($r=0.11$ $p<0.01$)、「運動頻度」が多い人ほど、自分は健康であるという実感が高いことが分かった。また、問25で「日常生活の中で歩くようにしている」(図21における表示は「日常生活の中で歩く」と回答した人とそうでない人との間で、問21に対する回答に差があるか調べた。その結果、統計的に有意な差($t=5.59$ $P<0.01$)があり、「日常生活の中で歩くようにしている」人は、健康実感が高いことが分かった。

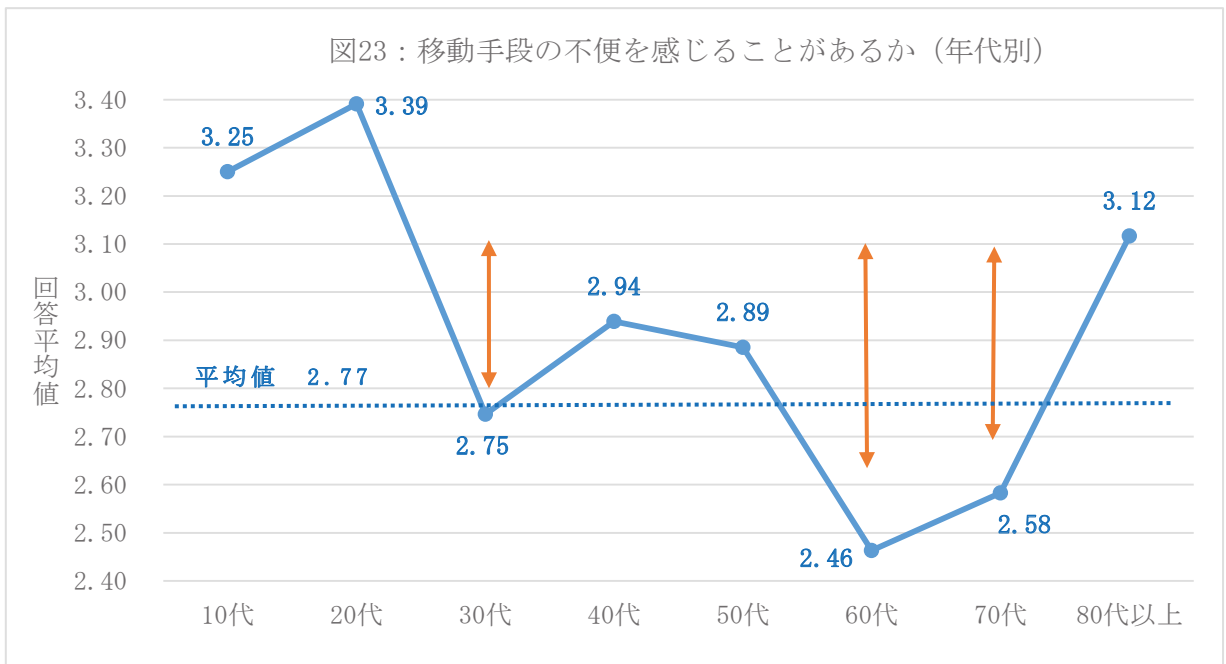
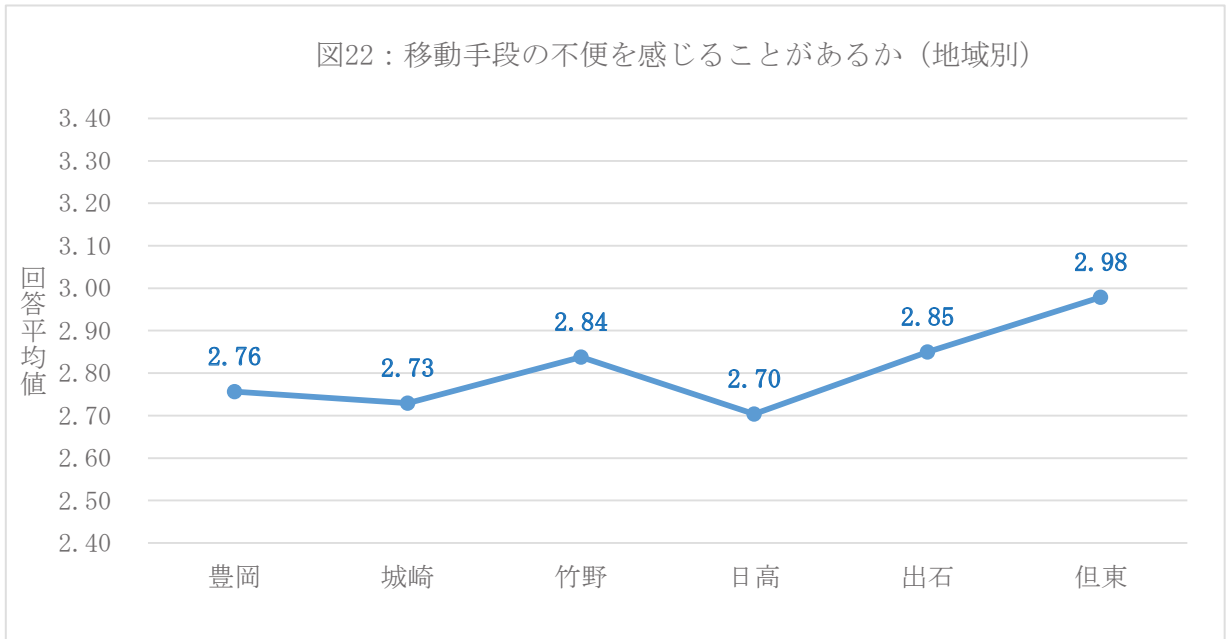
次に、戦略目的に手段02が寄与しているかをみるために、問22と問24との関係を調べた。その結果、問22「歩くこと」などの健康づくりをする回数が増えた人ほど、「運動頻度」も多いことが分かる。

さらに、問25の選択肢間でカイ2乗検定を行い、「日常生活の中で歩くようにしている」の有無と、外の健康づくりの実践の有無についての関係を調べた。その結果、「職場でのラジオ体操やストレッチ」及び「運動施設に通う」以外の健康づくりを実践している人は、「日常生活の中で歩くようにしている」と回答する傾向があることが分かった(カイ2乗値=73.40~4.66($df=1$ 、 $p<0.05$))。

これらのことから、歩くことを中心とした健康づくりの手段は、体を動かす頻度の上昇につながり、さらにはそれが市民の健康の維持に役立っている可能性があることが分かった。

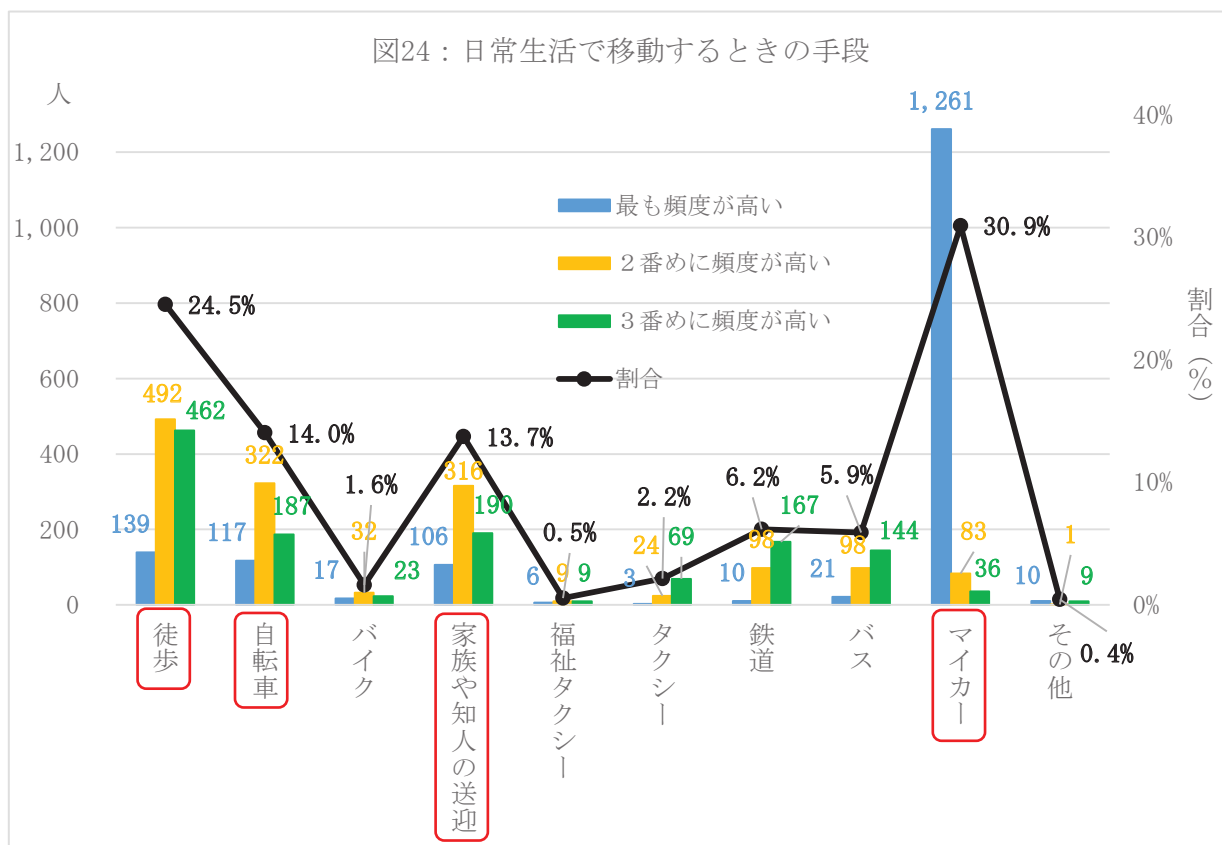
7 公共交通について（問26～問29）

(1) 問26『あなたは外出の際、移動手段について不便に感じることがありますか』は、上位目的「目的にあった公共交通により市民の外出機会が確保されている」状態を測定する設問であり、その地域別及び年齢別の結果は図22及び図23のとおりである。地域別では統計的に有意な差はみられないが、年代別にみると、30代、60代及び70代は、10代、20代及び80代以上との間で統計的に有意な差がみられ（ $t=2.52\sim 5.73$ $P<0.05$ ）、年代によって上位目的の状態に差が生じていることが分かる。



(2) 問27『あなたは、日常生活で移動するとき、主にどの手段で移動しますか』は、手段01「生活基幹交通（バス、鉄道）が認知され、利用されている」状態を測定する設問である。それぞれの選択肢に対する回答者数（順位別に青色、山吹色、緑色の棒グラフ）及び3番目までの選択肢として選ばれた交通手段の全回答数に占める割合（黒色折れ線グラフ）を図24に示した。日常生活の移動手段は、「マイカー」が圧倒的に多く（30.9%）、「徒歩」（24.5%）と「自転車」（14.0%）及「友人や知人の送迎」（13.7%）が続く。

手段01の状態を測定する指標は、「鉄道」（6.2%）及び「バス」（5.9%）であり今後、継続して測定する必要がある。

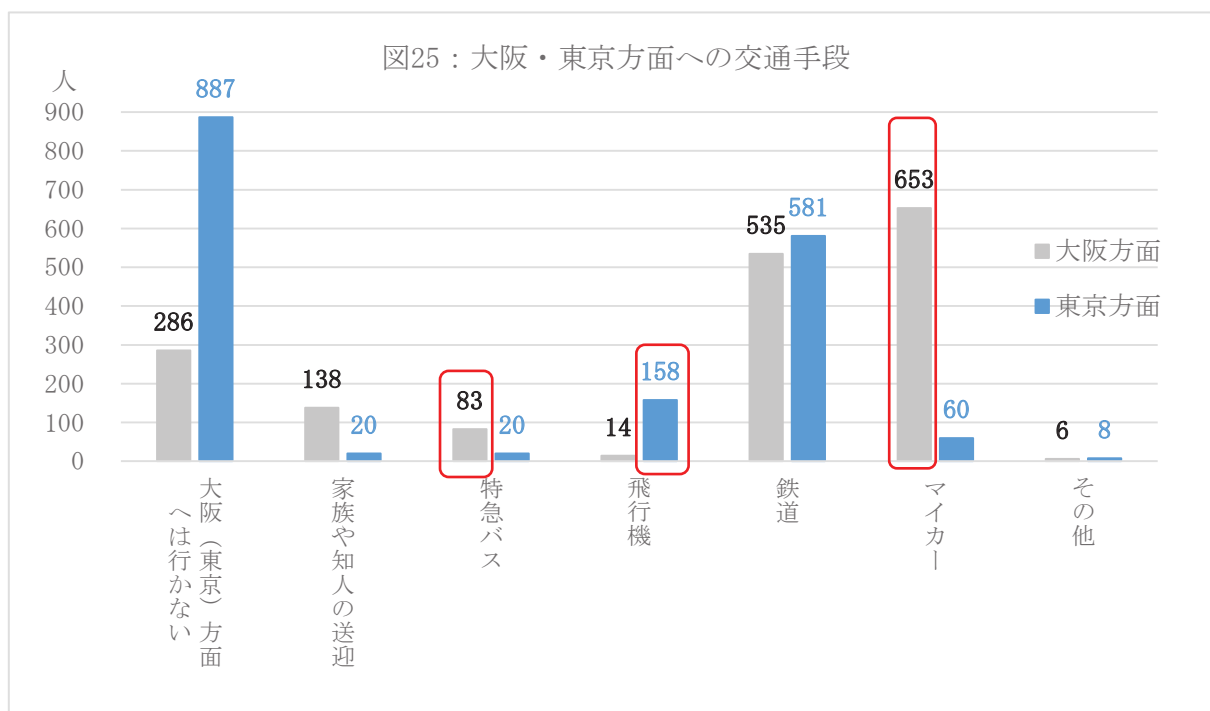


地域別の回答人数及び回答者に占める割合を表8に示した、指標となる「鉄道」及び「バス」の地域別は太囲みで表示した。

<表8：地域別の回答者数>

		徒歩	自転車	バイク	家族や 知人の 送迎	福祉 タクシー	タクシー	鉄道	バス	マイカー	その他
豊岡	人数(人)	533	324	28	292	14	69	112	124	630	8
	割合(%)	25.0	15.2	1.3	13.7	0.7	3.2	5.2	5.8	29.5	0.4
城崎	人数(人)	84	56	8	35	0	9	28	22	96	0
	割合(%)	24.9	16.6	2.4	10.4	0.0	2.7	8.3	6.5	28.4	0.0
竹野	人数(人)	60	39	5	30	2	1	22	10	91	2
	割合(%)	22.9	14.9	1.9	11.5	0.8	0.4	8.4	3.8	34.7	0.8
日高	人数(人)	208	104	15	122	4	7	88	62	302	6
	割合(%)	22.7	11.3	1.6	13.3	0.4	0.8	9.6	6.8	32.9	0.7
出石	人数(人)	142	81	10	78	1	5	17	30	168	3
	割合(%)	26.5	15.1	1.9	14.6	0.2	0.9	3.2	5.6	31.4	0.6
但東	人数(人)	49	12	5	45	2	3	4	11	70	0
	割合(%)	24.4	6.0	2.5	22.4	1.0	1.5	2.0	5.5	34.8	0.0

- (3) 問28及び問29『あなたは大阪（東京）方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか』は、手段02「ビジネス・観光基幹交通（飛行機、特急バス/鉄道）」が認知され、利用されている」状態を測定する設問で、その結果は図25のとおりである（大阪方面は灰色、東京方面は青色の棒グラフ）。



これまでの結果は、表9及び表10のとおりである。ただし、過去に実施したアンケートと選択肢の内容及び掲載順が異なるため、単純な比較は不可能である。

<表9：年度別回答者数（大阪方面）>

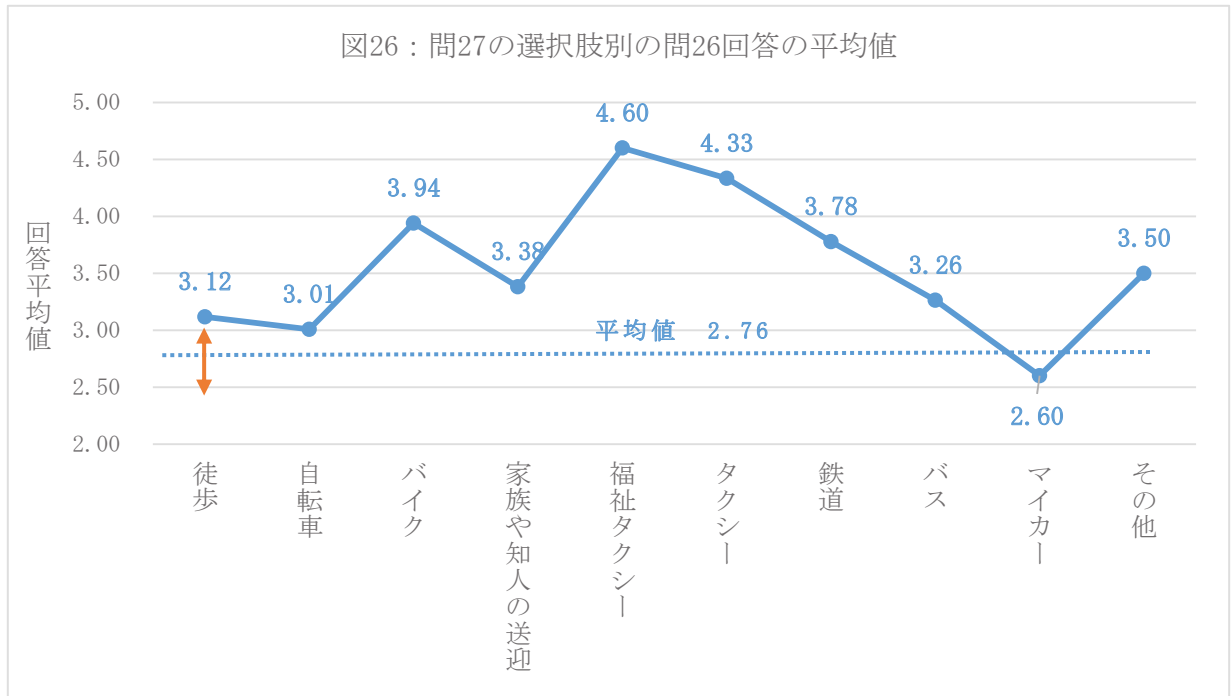
	大阪方面へは行かない	家族や知人の送迎	特急バス	飛行機	鉄道	マイカー	その他
2014	-	-	4.54	0.96	33.25	59.86	1.40
2015	-	-	5.19	0.47	35.66	57.52	1.16
2016	-	-	5.53	0.29	33.85	59.66	0.66
2017	6.40	-	6.01	0.31	30.27	56.63	0.39
2018	5.56	-	6.43	0.48	26.77	60.52	0.24
2019	16.68	8.05	4.84	0.82	31.20	38.08	0.35

<表10：年度別回答者数（東京方面）>

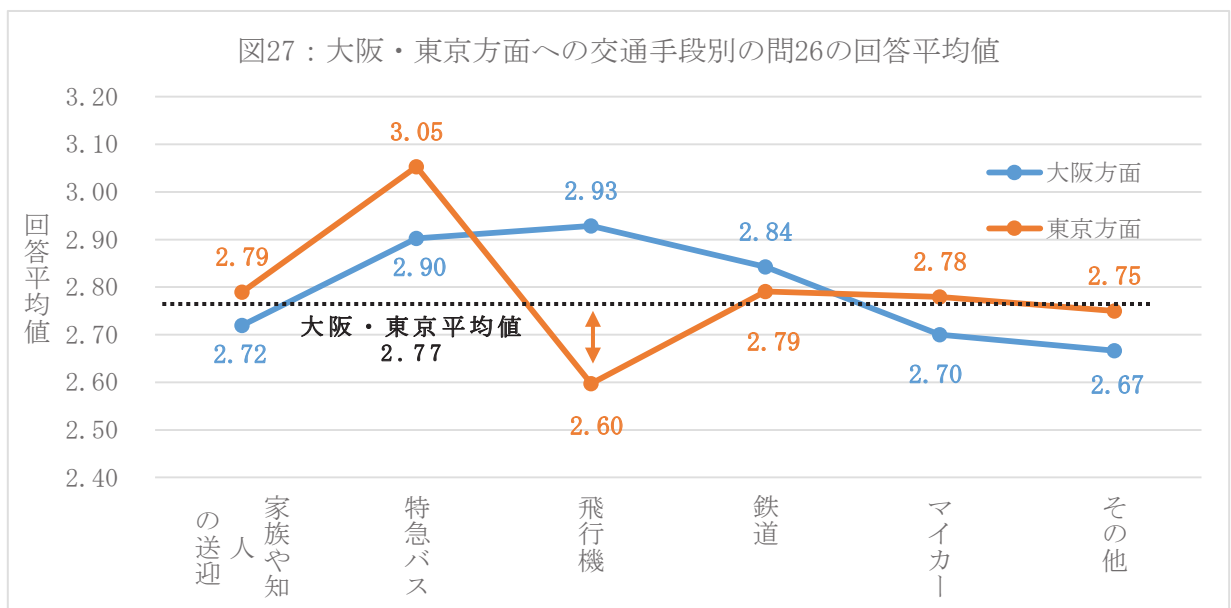
	大阪方面へは行かない	家族や知人の送迎	特急バス	飛行機	鉄道	マイカー	その他
2014	-	-	1.06	15.55	73.50	6.01	3.89
2015	-	-	1.68	16.05	72.12	6.23	3.91
2016	-	-	1.59	14.83	75.65	6.98	0.95
2017	38.99	-	0.87	10.38	44.06	5.47	0.24
2018	39.62	-	1.40	10.54	44.32	3.62	0.49
2019	51.15	1.15	1.15	9.11	33.51	3.46	0.46

(4) 上位目的と手段01及び手段02の関係について調べた。

問27の最も利用する頻度が高い交通手段別に、問26に対する回答の平均値の差を図26に示した。マイカーの回答者と徒歩の回答者等との間で統計的に有意な差がみられ ($t=4.51$ $p<0.01$)、マイカーでの移動が可能なが移動手段の便利さにつながっている可能性がある。



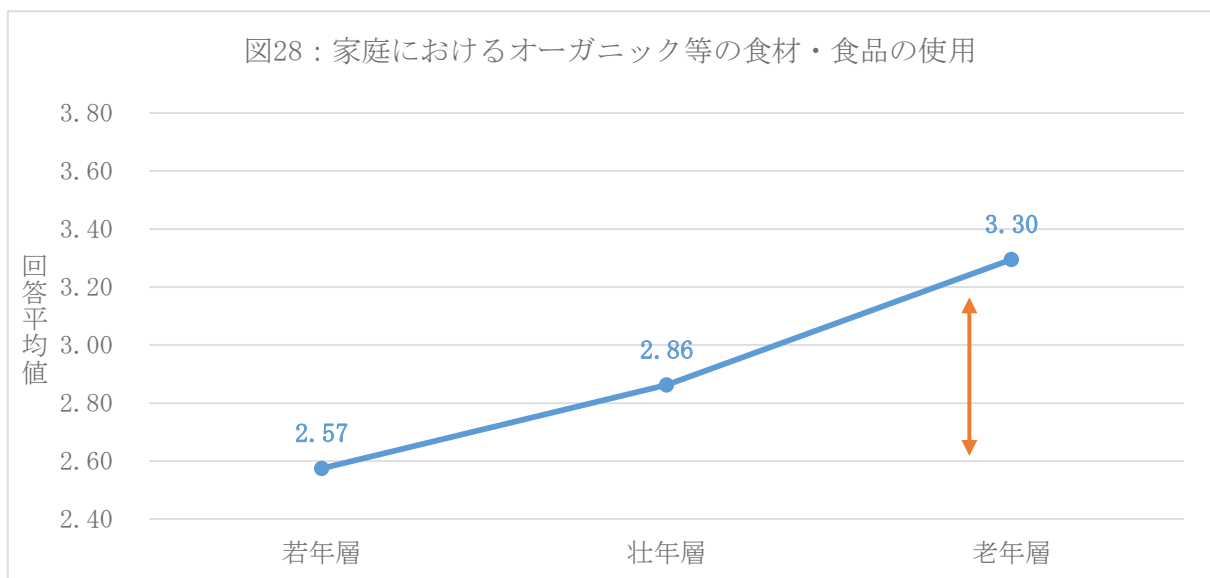
次に、問28及び問29の方面別で問26に対する回答の平均値を図27に示した（大阪を青色折れ線、東京を橙色折れ線）。手段別では統計的に有意な差は認められないものの、東京方面への移動手段が飛行機の回答者の回答平均値は、全体の回答の平均値を下回っており、大阪方面の平均値ともかい離しているため、東京方面へ移動手段として飛行機の利便性が高く感じられている可能性がある。



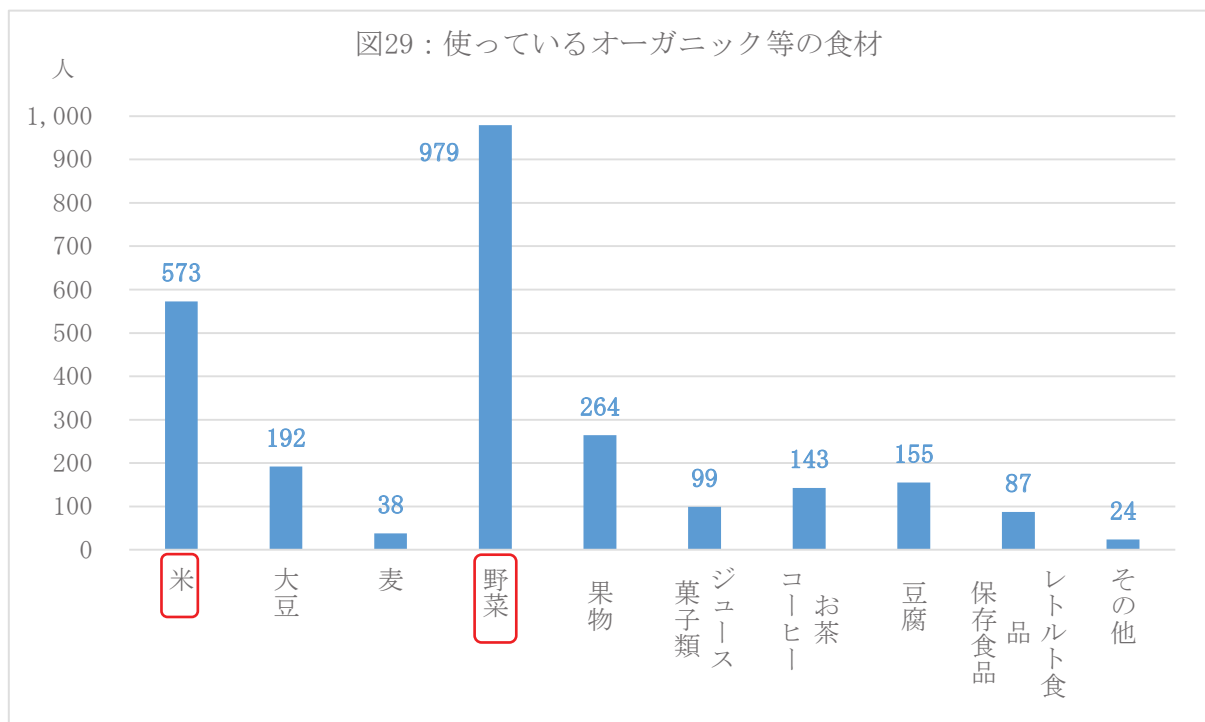
8 食と農業について（問30～問31）

問30及び問31は、上位目的「環境創造型農業により農村に子供たちの笑顔があふれ、農村は活気に満ちている」の戦略体系図の手段に関する設問である。戦略目的「環境創造型農業により農家所得が増えている」状態については、測定対象となる母集団が少数のため、市民一般に対するアンケートでは信頼性のある測定を実施することはできない。したがって、戦略目的の状態の測定は、所管課が把握している対象者の聞き取り調査等により実施されたい。

- (1) 問30『あなたは家庭で作る食事に、オーガニック、無農薬、減農薬の食材・食品を使っていますか』は、手段03「環境創造型農産物のファンが増え、高付加価値の人気商品となっている」状態を測定する質問であり、年齢層別の回答平均値を図28に示した。老年層は若年層及び壮年層と統計的に有意な差があり（ $t=4.98$ 6.74 $P<0.01$ ）、老年層の方が肯定的に回答している。また、男女間でも統計的に有意な差がみられ（ $t=4.01$ $P<0.01$ ）、女性の方が男性より肯定的な回答をしている。なお、地域別には統計的に有意な差はみられなかった。



(2) 問31『使っているオーガニック、無農薬、減農薬の食材はどのようなものですか』は、問30の具体的な内容を問う設問であり、その結果は図29のとおりである。「野菜」及び「米」を使っていると回答する人が多い。

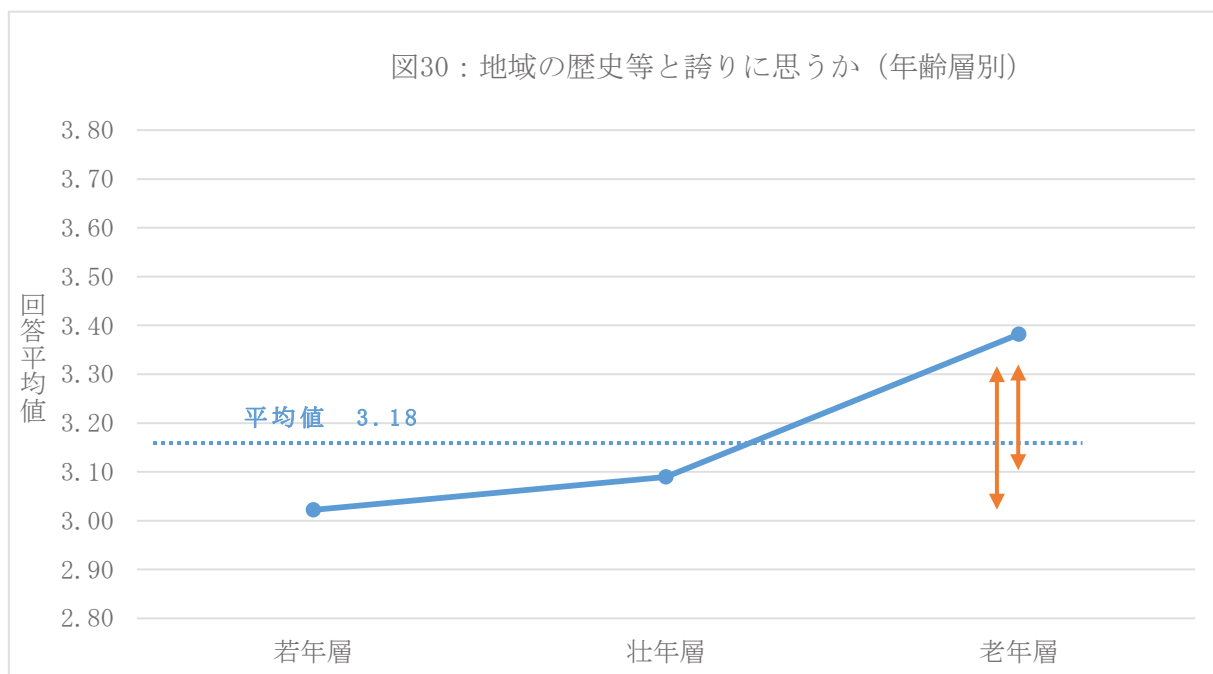


9 地域の歴史、伝統、文化芸術（問32～問37）

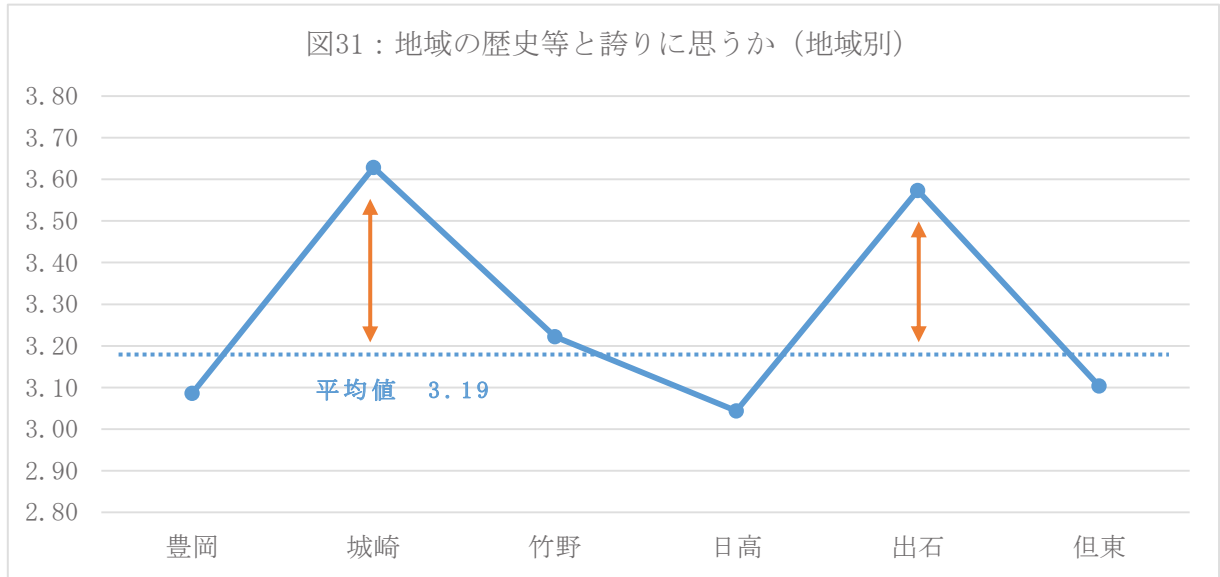
問32から問34は、上位目的「地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、引き継がれている」に関する設問、問35から問37は、上位目的「優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる」に関する設問である。

- (1) 問32『あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか』は、戦略目的「市民が、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じている」状態を測定する設問であり、年齢層別及び地域別の回答平均値は図30及び図31である。

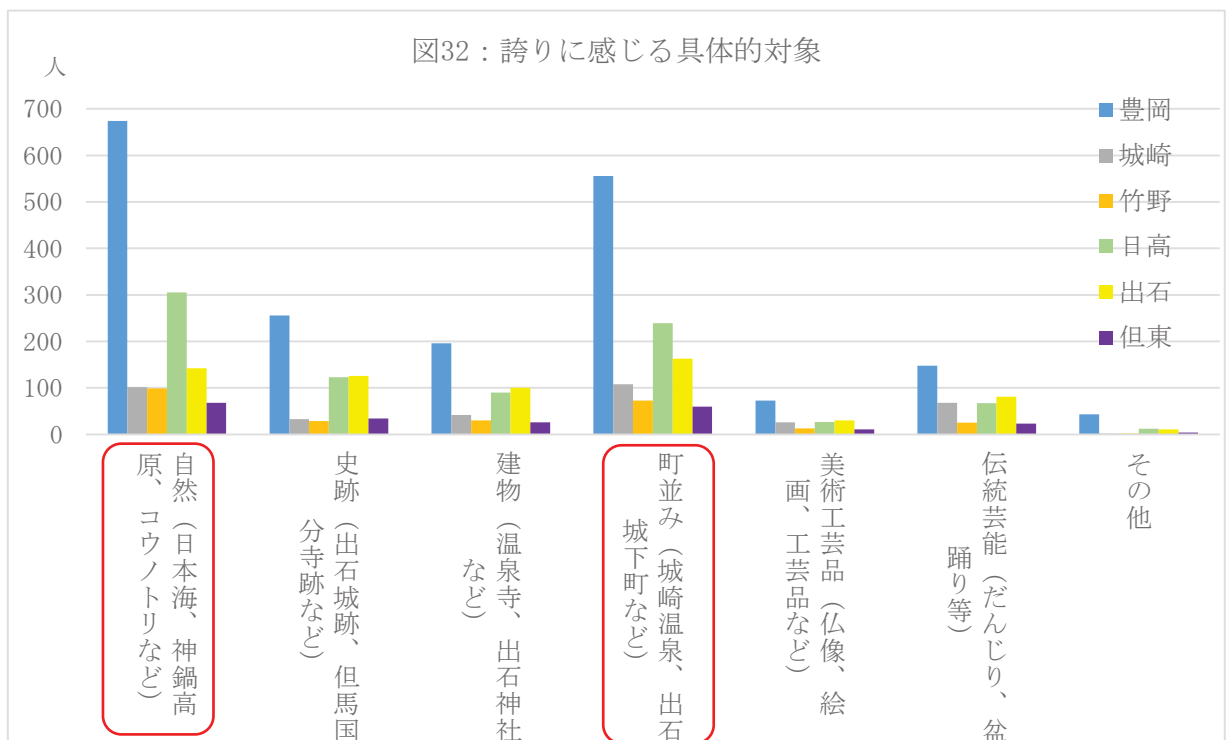
年齢層別の回答平均値については、老年層は若年層及び壮年層との間に統計的に有意な差がみられ（ $t=2.84$ 5.02 $p<0.01$ ）、老年層は他の年齢層に比べて地域の歴史、伝統、文化を誇りに感じている。このことから、年齢層で戦略目的の状態への到達度合に差がみられると言える。



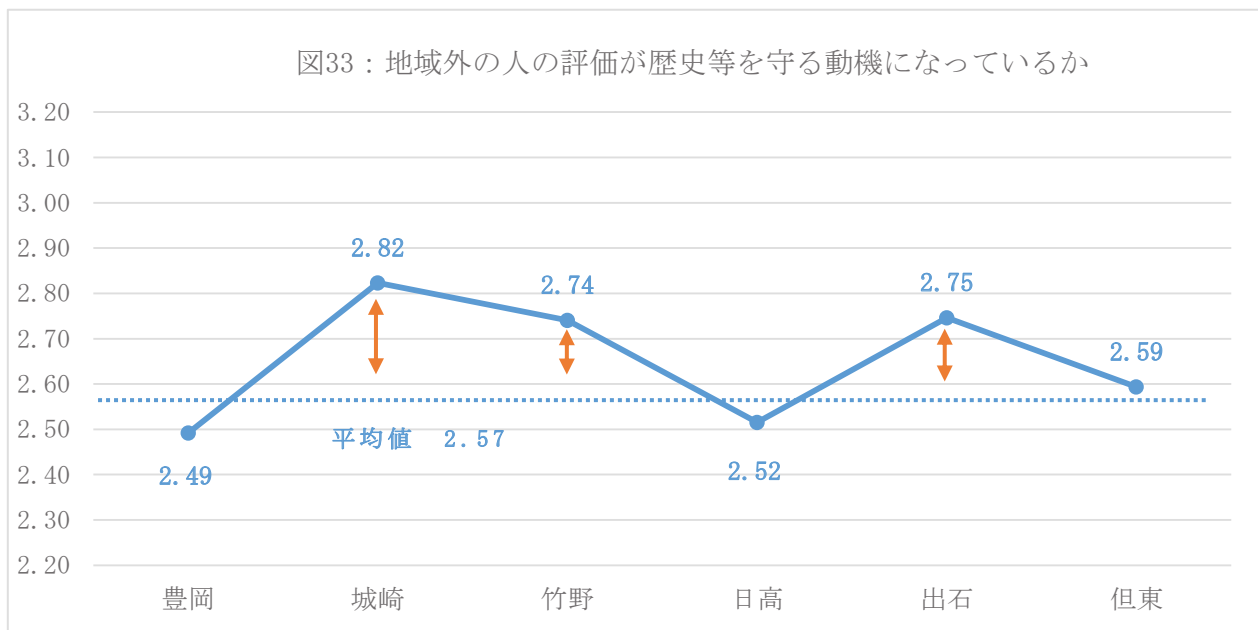
地域別の回答平均値は、城崎地域及び出石地域と他の地域との間で統計的に有意な差がみられ（ $t=5.59\sim 2.90$ $P<0.01$ ）、両地域の市民は他の地域の市民に比べて地域の歴史、伝統、文化を誇りに感じている。このことから、戦略目的の状態に関して地域差があると言える。



(2) 問33『あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか』は、手段01「市民が地域の歴史、伝統、文化に日常生活の中で触れている」状態を測定するために、誇りに感じる具体的対象を問う設問であり、その結果は図32のとおりである（地域別に棒グラフで示した）。全ての地域で「自然」及び「町並み」を誇りに感じるという回答者が多い。



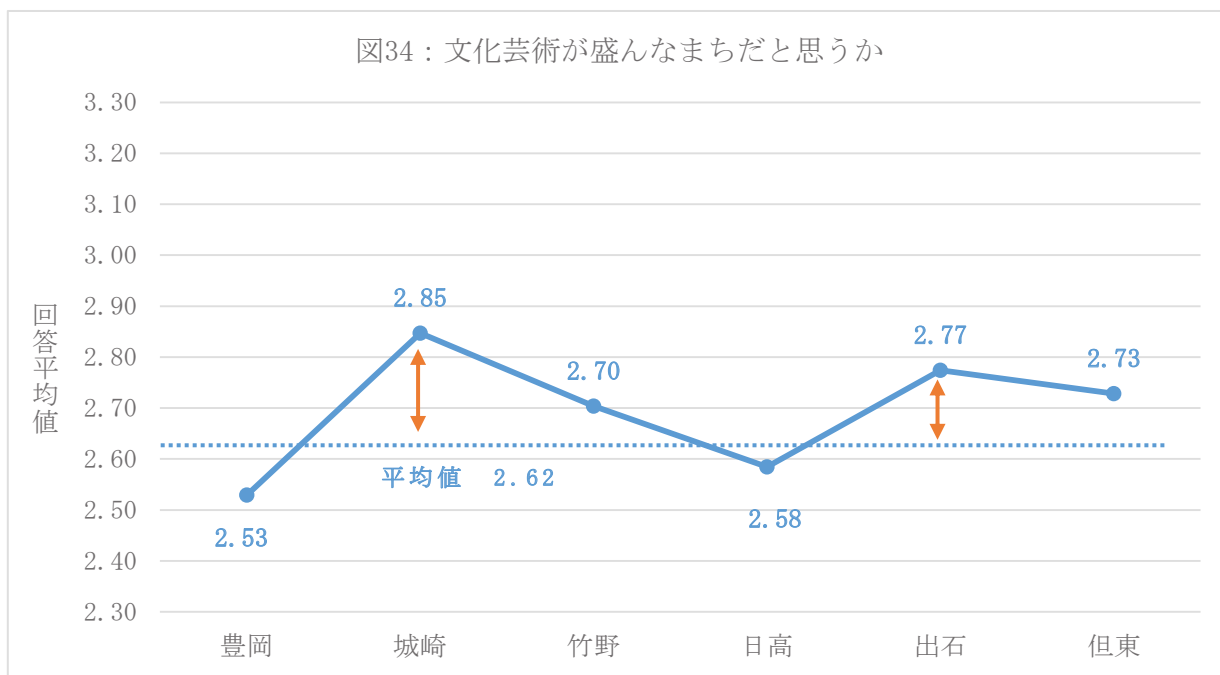
(3) 問34『あなたは、市外の人やマスメディア、SNSなどの評価によって、豊岡の歴史、伝統、文化の素晴らしさに気付かされたことはありますか』は、手段02「地域の歴史、伝統、文化に対する地域外からの評価が、地域の人が自らの歴史、伝統、文化を守る動機の一つとなっている」状態を測定するための設問であり、その結果は図33のとおりである。城崎地域、竹野地域及び出石地域と他の地域との間で統計的に有意な差がみられ ($t=3.61\sim 2.11$ $p<0.05$)、この3つの地域は他の地域に比べ、地域外からの評価が歴史等を守る動機になっている。このことから、手段02の状態に関しては地域差があると言える。



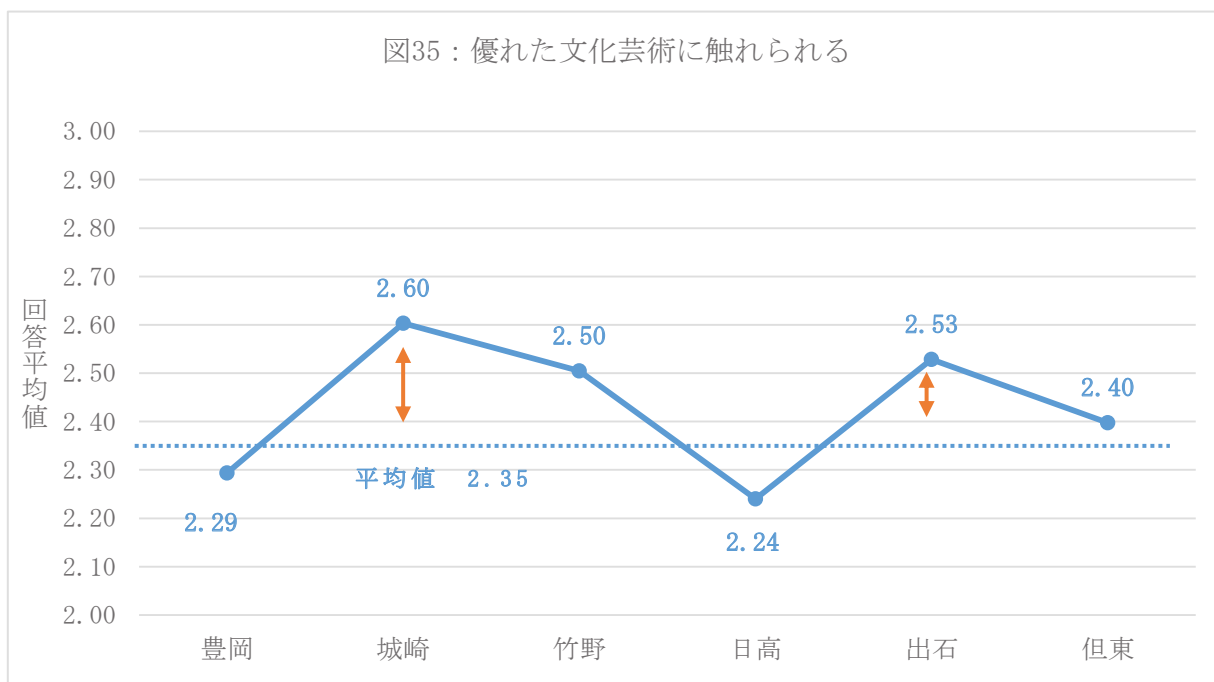
(4) 戦略目的と手段01の関係をみるために、問33で「自然」及び「町並み」を誇りに思う回答者とそうでない回答者との間で、問32の回答平均値に差があるかt検定を行った。その結果、「自然」及び「町並み」を誇りに思う回答者とそうでない回答者との間で統計的に有意な差がみられ ($t=7.11$ 8.50 $p<0.01$)、具体的に誇りに感じる対象がある人ほど、地域の歴史等をわが町の誇りだと感じる傾向があると言える。このことから、手段01の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

(5) 戦略目的と手段02の関係を調べるために、問32と問34の相関をみた。その結果、問32と問34には正の相関がみられ ($r=0.41$ $p<0.01$)、地域外の人から評価され豊岡の歴史等の素晴らしさに気付かされた人ほど、地域の歴史等をわが町の誇りだと感じる傾向があると言える。このことから、手段02の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

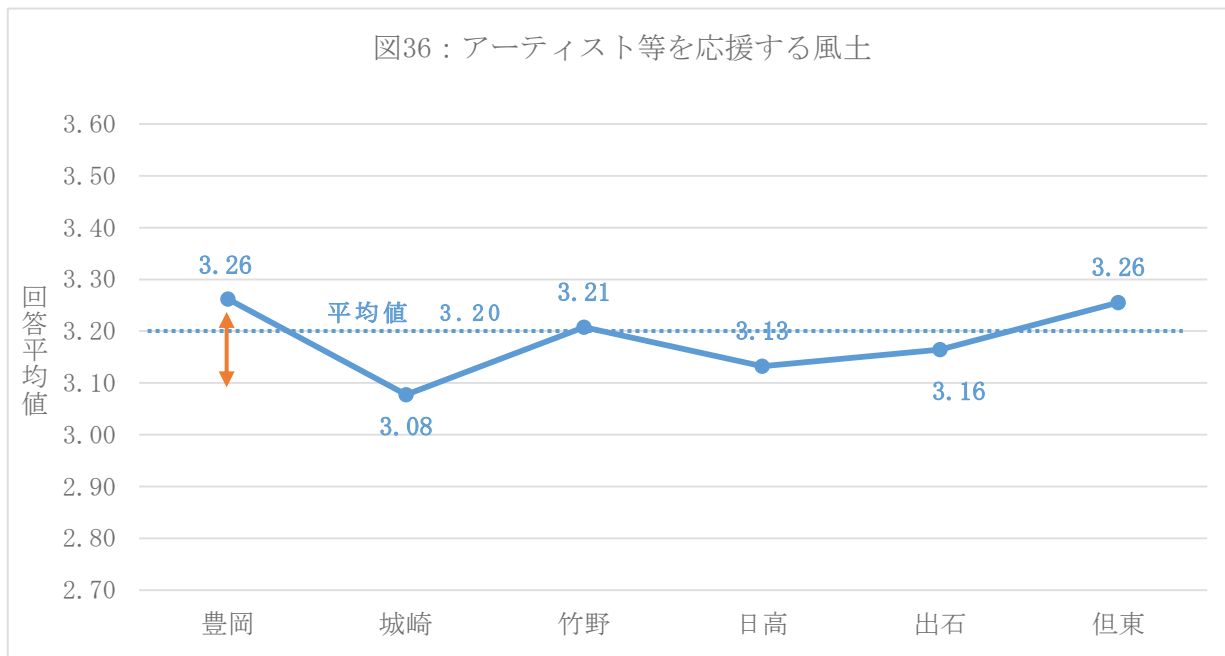
(6) 問35『あなたは、豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思いますか』は、戦略目的「人々が世界中からやってきたアーティスト、クリエイター等の文化芸術を鑑賞している」状態を測定するための設問であり、その地域別の結果は図34のとおりである。城崎地域及び出石地域と豊岡地域及び日高地域との間には統計的に有意な差がみられ ($t=3.52\sim 2.32$ $p<0.05$)、城崎地域及び出石地域の市民は、他の地域の市民に比べ、豊岡市を文化芸術が盛んなまちだと考えている。このことから、城崎地域及び出石地域は他の地域よりも戦略目的の状態に近いと言える。



(7) 問36『あなたは、一流のアーティストが創作する舞台芸術や芸術作品など、質の高い文化芸術に気軽に触れられる機会が多いまちだと思いますか』は、手段01「優れた文化芸術に身近に触れられる環境が整っている」状態を測定する設問で、その地域別の結果は図35のとおりである。問35と同様に城崎地域及び出石地域と豊岡地域及び日高地域との間には統計的に有意な差があり（ $t=3.71\sim 3.19$ $p<0.01$ ）、城崎地域及び出石地域の回答者は、他の地域の回答者よりも優れた文化芸術に身近に触れられる環境にあると感じている。このことから、城崎地域及び出石地域は他の地域よりも、手段01の状態に近いと言える。



(8) 問37『あなたは、豊岡市で活動するアーティストやクリエイターを応援したいと思いますか』は、手段0203「アーティスト・クリエイター等を応援する風土が育っている」状態を測定する設問であり、その結果は図36のとおりである。豊岡地域と城崎地域の間には統計的に有意な差があり ($t=2.06$ $p<0.05$)、城崎地域の市民に比べ豊岡地域の市民の方がアーティスト等を応援したいと思っている。このことから、豊岡地域は手段0203の状態に近いと言える。

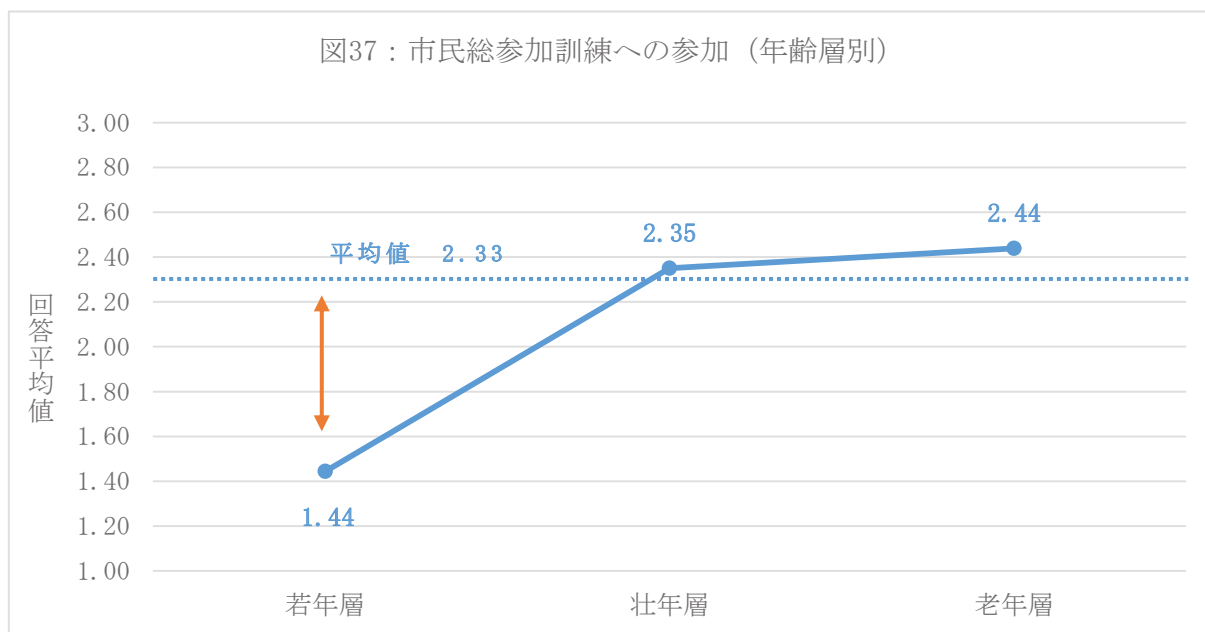


(9) 戦略目的と手段01及び手段0203との関係を調べるために、問35と問36の相関及び問35と問37の相関をみた。その結果、問35と問36の間及び問35と問37の間に正の相関がみられ ($r=0.53$ 0.36 $p<0.01$)、手段01及び手段0203の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

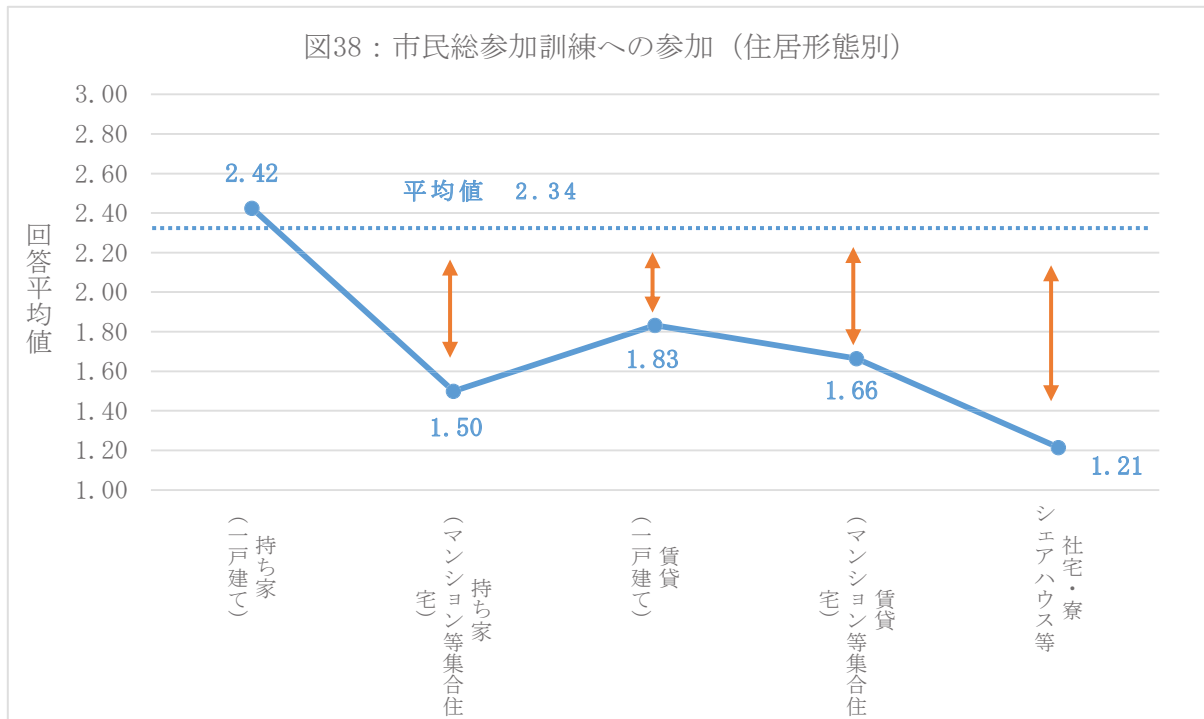
10 防災について（問38～問44）

問38から問44は、上位目的「災害に備え、地域の防災力が高まっている」に関する設問である。

- (1) 問38『あなたは、市民総参加訓練に参加していますか』は、戦略目的「市民と行政が協働して防災に取り組んでいる」状態を測定する設問であり、年齢別の結果は図37のとおりである。若年層と壮年層及び老年層の間には統計的に有意な差がみられ（ $t=10.12$ 10.51 $p<0.01$ ）、若年層は他の年齢層よりも否定的な回答をしており、戦略目的の状態から遠いと言える。



住居形態別の結果は図38のとおりで、持ち家（一戸建て）の回答者とそれ以外の住居形態の回答者との間で統計的に有意な差があり（ $t=4.30\sim 10.51$ $p<0.01$ ）、持ち家（一戸建て）以外の市民は持ち家（一戸建て）の市民よりも否定的に回答しており、戦略目的の状態から遠いと言える。なお、地域別では統計的に有意な差はみられなかった。



(2) 問39『参加したことがないのはなぜですか』は、市民総参加訓練に参加できない理由を探る設問であり、年齢層別及び住居形態別の結果は表11及び表12のとおりである。理由は「市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない」及び「仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない」の回答（橙色）が多い。なお、老年層の「その他」（鶯色）は体調不良等により参加できないという理由が大半を占めている。

<表11：市民総参加訓練に参加できない理由（年齢別）>

		自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない	市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない	仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない	訓練が役に立つとは思えない	関心がない	あまり付いたくない	人合ない	転入したばかりなのでまだ機会がない	その他
若年層	人数(人)	0	22	33	0	16	7	4	5	
	割合(%)	0.0	25.3	37.9	0.0	18.4	8.0	4.6	5.7	
壮年層	人数(人)	25	113	147	16	47	21	19	25	
	割合(%)	6.1	27.4	35.6	3.9	11.4	5.1	4.6	6.1	
老年層	人数(人)	33	50	18	8	15	14	5	48	
	割合(%)	17.3	26.2	9.4	4.2	7.9	7.3	2.6	25.1	

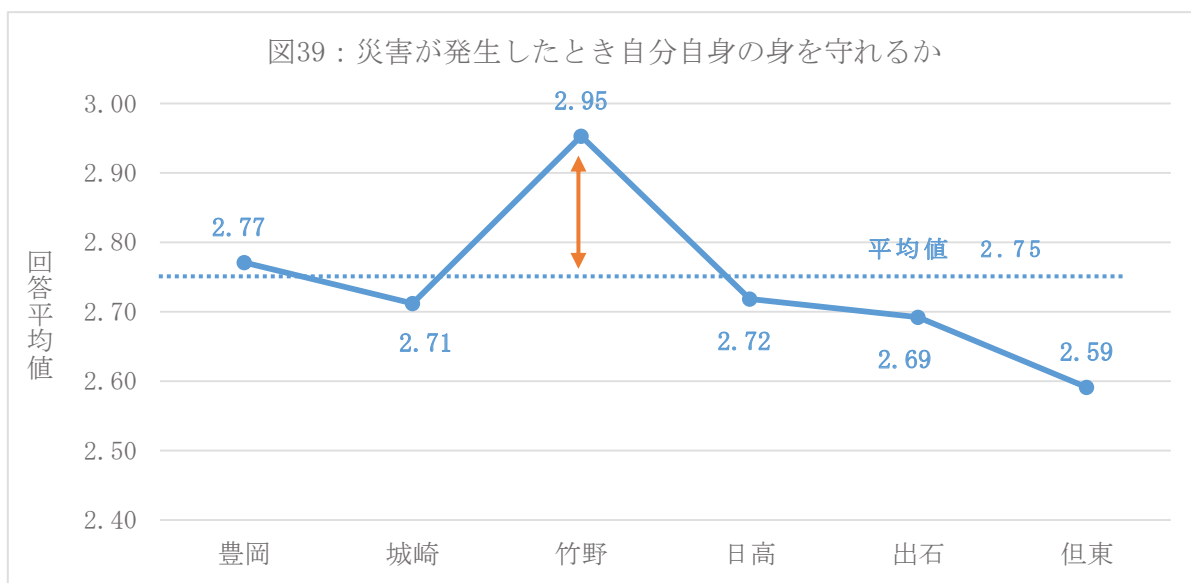
住居形態別では、賃貸住宅の回答者の「関心がない」及び「転入したばかりなのでまだ機会がない」という割合が高い（鶯色）。

<表12：市民総参加訓練に参加できない理由（住居形態別）>

		自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない	市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない	仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない	訓練が役に立つとは思えない	関心がない	あまり付いたくない	人合ない	転入したばかりなのでまだ機会がない	その他
持ち家 (一戸建て)	人数(人)	52	139	146	19	58	32	9	64	
	割合(%)	10.0	26.8	28.1	3.7	11.2	6.2	1.7	12.3	
持ち家 (マンション・高齢者向け)	人数(人)	0	2	4	0	1	1	0	1	
	割合(%)	0.0	22.2	44.4	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	
賃貸 (一戸建て)	人数(人)	2	9	10	0	2	2	5	3	
	割合(%)	6.1	27.3	30.3	0.0	6.1	6.1	15.2	9.1	
賃貸 (マンション・高齢者向け)	人数(人)	3	31	31	3	15	7	10	6	
	割合(%)	2.8	29.2	29.2	2.8	14.2	6.6	9.4	5.7	
社宅・寮 シェアハウス等	人数(人)	1	4	5	1	1	0	4	1	
	割合(%)	5.9	23.5	29.4	5.9	5.9	0.0	23.5	5.9	

(3) 問40『あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思いますか』は、手段01「市民一人一人が正しい防災知識を身に付け、自分自身の身を守る行動がとれている」状態を測定する設問であり、その地域別の結果は図39のとおりである。竹野地域と他の全ての地域との間で統計的に有意な差があり（ $t=3.16$ $P<0.05$ ）、竹野地域の市民は他の地域の市民に比べ肯定的に回答しており、手段01の状態に近いと言える。

住居形態別では「賃貸（一戸建て）」と「持ち家（一戸建て）」の間に統計的に有意な差があり（ $t=2.83$ $P<0.01$ ）、「賃貸（一戸建て）」の市民は「持ち家（一戸建て）」の市民より否定的に回答しており、両者の間で手段01の状態に差が生じていると言える。



(4) 問41『あなたは次の防災活動に参加したことがありますか』は、手段02「自主防災組織の活動が活発に行われている」状態を測定する設問であり、年齢層別及び地域別の結果は表13及び表14のとおりである。区で行われる訓練（橙色）には若年層も過半数の人が参加している。

<表13：参加した防災活動（年齢層別）>

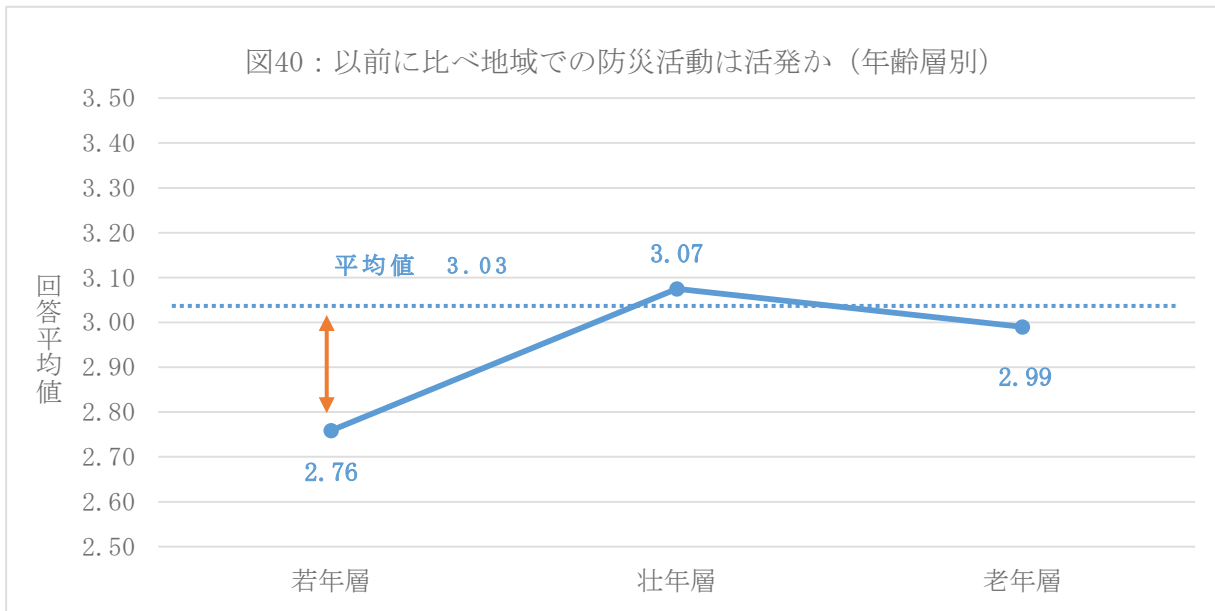
		区で行われる訓練（市民総参加訓練以外）	市政出前講座	区、コミュニティで 行われる防災ワークショップ	防災学習会	北但馬大震災メモリアル写真展	台風23号メモリアル写真展
若年層	人数（人）	24	2	2	8	3	6
	割合（%）	53.3	4.4	4.4	17.8	6.7	13.3
壮年層	人数（人）	603	55	131	92	79	126
	割合（%）	55.5	5.1	12.1	8.5	7.3	11.6
老年層	人数（人）	336	51	83	58	62	90
	割合（%）	49.4	7.5	12.2	8.5	9.1	13.2

全回答者に占める割合が7.0%を下回る項目に着色した。出前講座及び写真展で7.0%を下回る割合の地域が多い。

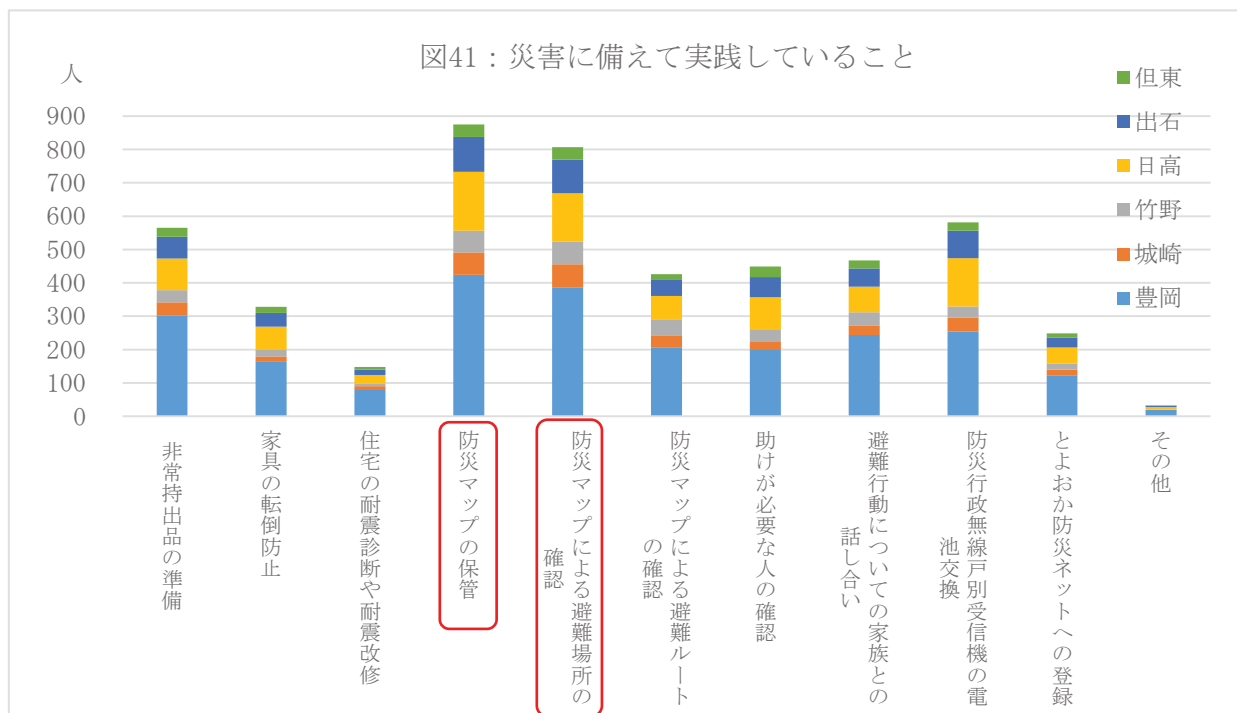
<表14：参加した防災活動（地域別）>

		区で行われる訓練（市民総参加訓練以外）	市政出前講座	区、コミュニティで 行われる防災ワークショップ	防災学習会	北但馬大震災メモリアル写真展	台風23号メモリアル写真展
豊岡	人数（人）	425	52	106	80	96	145
	割合（%）	47.0	5.8	11.7	8.8	10.6	16.0
城崎	人数（人）	75	4	9	9	9	10
	割合（%）	64.7	3.4	7.8	7.8	7.8	8.6
竹野	人数（人）	83	12	13	10	8	13
	割合（%）	59.7	8.6	9.4	7.2	5.8	9.4
日高	人数（人）	213	21	45	30	16	24
	割合（%）	61.0	6.0	12.9	8.6	4.6	6.9
出石	人数（人）	112	13	32	23	12	22
	割合（%）	52.3	6.1	15.0	10.7	5.6	10.3
但東	人数（人）	53	6	10	6	3	7
	割合（%）	62.4	7.1	11.8	7.1	3.5	8.2

(5) 問42『あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか』は、手段02を測定する設問で、年齢層別の結果は図40のとおりである。若年層と壮年層及び老年層の間で統計的に有意な差があり（ $t=2.82$ 2.19 $P<0.05$ ）、若年層は他の年齢層に比べ、以前より地域での防災活動は活発ではないと思っている。年齢層によって手段02の状態に差があると言える。なお、地域間で統計的に有意な差はみられなかった。



(6) 問43『あなたは災害に備えて次のことを実践していますか』は、手段02及び手段03「災害時に適切な避難行動ができる環境が整っている」状態を測定する設問で、その結果は図41のとおりである。「防災マップの保管」及び「防災マップによる避難場所の確認」が多くの市民に実践されている。



(7) 問44『「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。

「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか』は、手段01の状態の中で、特に近年重要になっている「特別警報」についての知識を問う設問である。年齢層別及び地域別で統計的に有意な差はみられなかった。男女別の回答については表15の通りであり、男女の間で統計的に有意な差がみられ ($t=5.29$ $p<0.01$)、男性は女性より特別警報について知識を保有している。

<表15：参加した防災活動（地域別）>

		男性		女性	
		人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）
「特別警報」について	まったく知らなかった	42	5.4	67	7.1
	聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった	186	23.8	289	30.5
	ある程度、どのようなものかも知っていた	378	48.4	478	50.4
	「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた	175	22.4	115	12.1

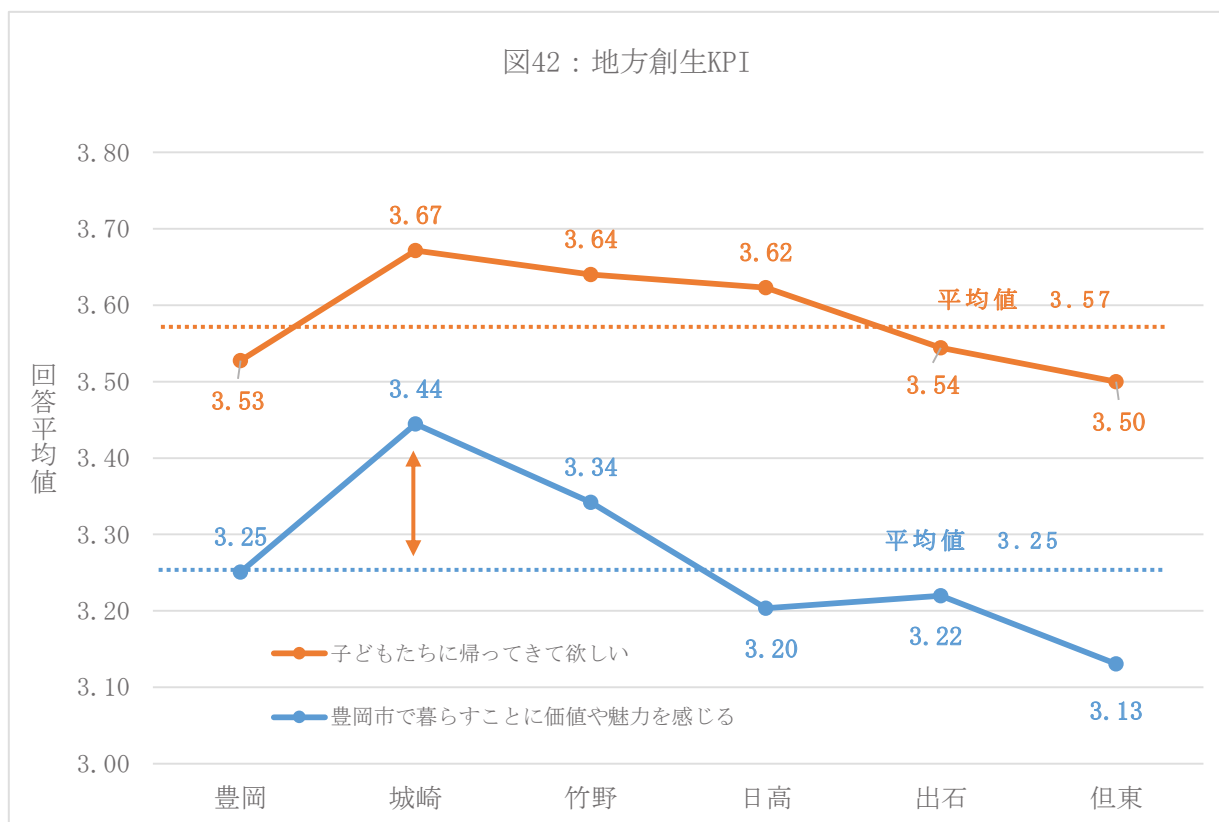
(8) 戦略目的と手段01及び手段02との関係を見るために、問38と問40、問42及び問44との相関をみた。その結果、問40、問42及び問44に肯定的に回答している人ほど、問38も肯定的に回答するという正の相関がみられる ($r=0.26\sim 0.15$ $p<0.01$)。このことから、手段01及び手段02の状態に近づくことで戦略目的の達成に寄与できる可能性があると言える。

11 まちづくりと観光について（問45～問48）

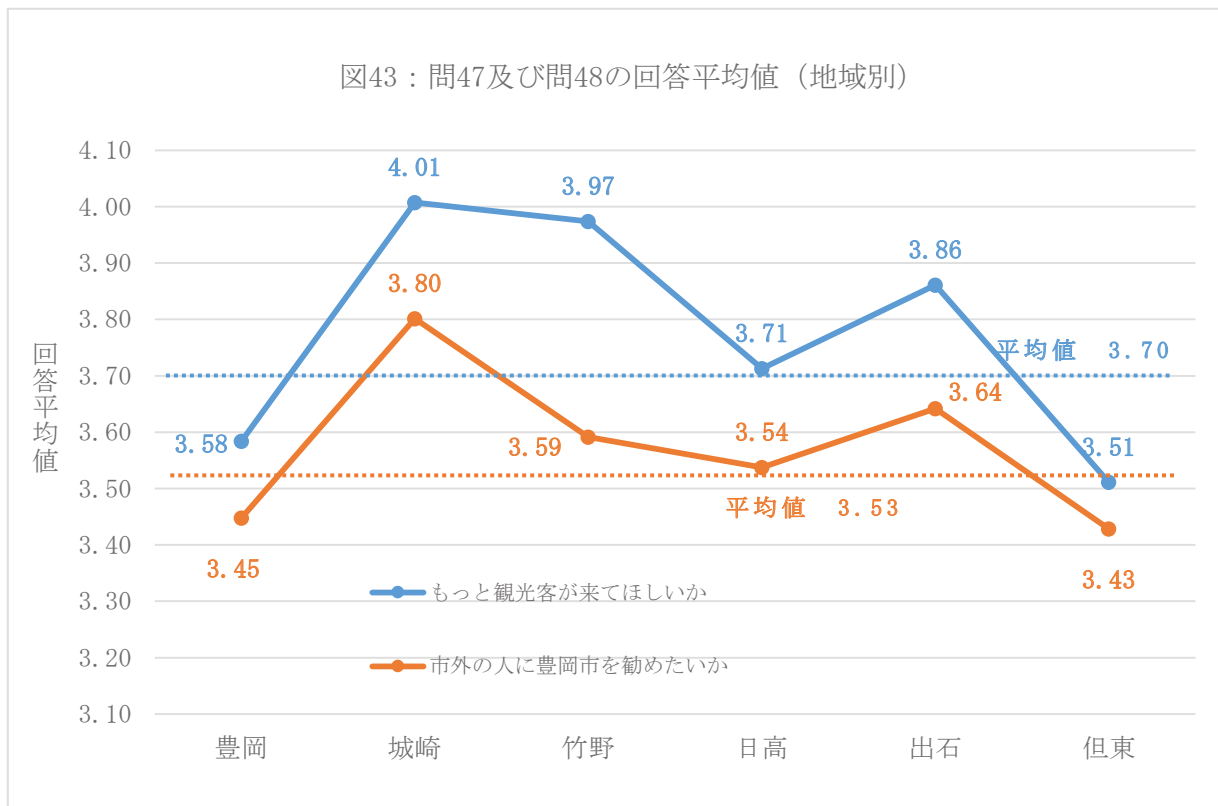
(1) 問45『あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じていますか』及び問46『あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいと思いますか』は、地方創生のKPIを得るための設問であり、地域別の結果は図42のとおりである。

問45は、城崎地域と豊岡地域、日高地域、出石地域及び但東地域との間で統計的に有意な差があり（ $t=2.01\sim 2.36$ $p<0.05$ ）、城崎地域の市民は他の地域の市民より、豊岡に暮らすことに価値や魅力があると感じている（青色折れ線）。問46では、地域間で統計的に有意な差はみられなかった（橙色折れ線）。

なお、問46では、高校生以下の子どもがいる回答者といない回答者との間で統計的に有意な差がみられ（ $t=3.15$ $P<0.01$ ）、高校生以下の子どもがいる回答者の方がいない回答者よりも、進学等で出ていく子どもたちに帰ってきて欲しいと思う気持ちは低い。



(2) 問47『あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いませんか』（青色折れ線）及び問48『市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いませんか』（燈色折れ線）は、今後策定する観光に関する戦略の指標に予定している設問であり、地域別の結果を図43のとおり示した。



12 統計基礎用語解説

(1) t検定

分析対象となる変数がパラメトリック（データが、正規分布などの特定の分布にしたがっていると仮定する考え方）である場合に、2つのグループの平均値の差が、「単なる偶然」による差異ではない——— 即ち「統計的に有意な差」である——— ことを確認するための検定方法をt検定という。「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な差異がある」と判断する。

(2) カイ2乗（ χ^2 ）検定

分析対象となる変数がノンパラメトリック（データが、正規分布などの特定の分布にしたがっていないことを前提としない考え方）である場合に、2つの変数の分布に違いがあるかどうかを検定する統計手法をカイ2乗検定という。カイ2乗値が十分に大きいと、「2つの変数の間には違いがある」と考えられるが、その判断が統計的に妥当かどうかは、「統計的有意性」によって確認される。t検定と同様に、「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な差異がある」と判断する。

統計的に有意な差異があるかどうかを判断するために、2つのグループのデータから「カイ2乗値」と呼ばれる指数と、「自由度（degree of Freedom : df）」と呼ばれる値を算出し、これらの値に基づいて有意性の判断を行う。

(3) 相関分析

2つの連続変数（身長や体重のような数）の間に、単なる偶然ではない関係——— 即ち「統計的に有意な関係」——— が存在するかどうかを確認するための分析手法を相関分析という。「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な分析結果」であると判断する。

また、相関関係の強さは「r」で表わされ、「相関関係が全くない」ことを示す「r=0」から、「非常に強い関係がある」ことを示す「r=1」或は「r=-1」までの値をとる。「r=0」から「r=1」までの正の相関関係は「一方が増えれば他方も増える」という比例的な関係を表し、「r=-1」から「r=0」までの負の相関関係は「一方が増えれば他方が減る」という反比例関係を表す。

2019 豊岡市 まちづくりアンケート ～政策モニタリング調査～

日頃から市の取組みにご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

豊岡市では、よりよいまちづくりに活用するため、毎年、アンケートを実施しています。

このアンケートは、18歳以上の豊岡市民の皆さまの中から4,000人を無作為に抽出して送付しており、すべて匿名で処理され、個人に関わる情報が公開されることはありません。

また、集計結果は政策の改善の目的のみに使用し、その他の目的に使用することはありません。

アンケート回答の所要時間は約20分です。お忙しいところ恐縮ですが、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【 返送締切：平成31年2月6日（水） 】

平成31年1月21日
豊岡市

《 お問い合わせ 》

豊岡市政策調整課 行政改革係 担当：谷口、藤田
電話：0796-21-9022
FAX：0796-24-5932
Eメール：seisakuchousei@city.toyooka.lg.jp



◆**豊岡市の重要施策について評価しています。**

豊岡市では、市の重要政策について評価を行い、立案した政策の改善に結び付けたいと考えています。

その政策の改善の手がかりの一つにするために、このアンケートを定期的
に実施しています。これからも毎年このアンケートを実施し、政策が順調に
進んでいるかどうか、どうすればもっとうまくいくかについて等の情報を得
た上で、政策の改善を検討していきたいと考えています。

◆**市民の皆様と「協働」して政策を改善します。**

市民の皆さまと一緒に政策を改善するために、市民ワークショップ等を開
催し、政策について話し合っています。

「協働」とは、共通の目的に向かって一緒に行動することです。

市民ワークショップでは、（共通の目的
に賛同する）市民の皆さまと市が一緒に
政策を考えたり、見直したりする話し合
いを行っています。その話し合いで得ら
れた市民の皆さまの経験や知識を政策に
反映し、共通の目的の実現に向けて一緒
に行動していきたいと考えています。



市民ワークショップの様子

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

-----<<あなた自身について>>-----

【問1】 あなたの性別は？

- (1) 男性 (2) 女性 (3) その他

【問2】 あなたの年齢は？

- (1) 10代 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代 (5) 50代 (6) 60代 (7) 70代 (8) 80代以上

【問3】 あなたの職業（最も多く収入を得ているもの）は？

- (1) 会社員、会社役員 (2) 自営業（農業含む） (3) 公務員 (4) パート、アルバイト
(5) 専業主婦 (6) 学生 (7) NGO、NPO (8) 無職（年金暮らし含む）
(9) その他（ ）

【問4】 あなたはどこの地区にお住まいですか？

- (1) 豊岡地区 (2) 八条地区 (3) 三江地区 (4) 田鶴野地区 (5) 五荘地区 (6) 新田地区
(7) 中筋地区 (8) 奈佐地区 (9) 港地区（港東小学校区） (10) 港地区（港西小学校区）
(11) 神美地区 (12) 城崎地区 (13) 竹野南地区 (14) 中竹野地区 (15) 竹野地区 (16) 国府地区
(17) 八代地区 (18) 日高地区（日高小学校区） (19) 日高地区（静修小学校区） (20) 三方地区
(21) 清滝地区 (22) 西気地区 (23) 弘道地区 (24) 菅谷地区 (25) 福住地区 (26) 寺坂地区
(27) 小坂地区 (28) 小野地区 (29) 資母地区 (30) 合橋地区 (31) 高橋地区

【問5】 あなたの同居家族の構成は？

- (1) ひとり暮らし (2) 夫婦のみ (3) 夫婦と未成年の子ども
(4) ひとり親と未成年の子ども (5) 二世帯家族（親と子、^{③④}を除く）
(6) 三世帯家族（親と子と孫） (7) その他（ ）

【問6】 あなたのお住まいの居住形態は、どれにあたりますか？

- (1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（マンション等集合住宅）
(3) 賃貸（一戸建て） (4) 賃貸（マンション等集合住宅）
(5) 社宅・寮・シェアハウス等 (6) その他（ ）

【問7】 あなたの同居家族に**高校生以下の子ども**がいる場合は、その人数を教えてください。

小学生以下の子ども： ___ 人 中学生の子ども： ___ 人 高校生の子ども： ___ 人

1/10

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

-----<<自然と環境について>>-----

【問8】 あなたは、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか？

- (1) ほとんど感じていない (2) あまり感じていない (3) どちらとも言えない
(4) ある程度感じている (5) とても感じている

【問9】 あなたは、生物多様性保全のためにどのような取り組みが重要と思いますか？**重要と思われるものすべてに○をつけてください。**

- A 稲作（コウノトリ育む農法など） B 耕作放棄地のビオトープ化
C 間伐 D 自然に配慮した工法による河川整備
E 環境教育の実施 F 農地や農業施設の適正な管理
G 湿地、里山などの保全活動 H 自然体験活動の実施による自然への理解
I 里山の整備 J コウノトリをシンボルとした様々な取組み
K その他（ ）

【問10】 あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 省エネ行動（節電など） B ゴミの減量化（分別の徹底など）
C 公共交通の利用 D 自然エネルギーの活用（太陽光パネルの設置など）
E クールスポットの活用 F エコ家電の購入
G 環境に配慮した製品の購入（オーガニック、有機JASなど）
H クールビズ、ウォームビズの実践 I リサイクルショップなどの活用
J 地球温暖化についての議論や対話 K その他（ ）

【問11】 あなたは、森林資源（木質バイオマス）や自然エネルギー（太陽光、風力、水力）などの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない
(4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う

2/10

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

=====<<子育てと教育について>>=====

【問12】 あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問13】 子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか？**当てはまるものすべて**に○をつけてください。

- A こども支援センター B 子育てセンター C 教育相談室 D 青少年センター
E 社会福祉課（障害・療育） F 健康増進課（健康や成長、こころのケア）
G その他（ ）

【問14】 豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問15】 子ども達が集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか？**当てはまるものすべて**に○をつけてください。

- A 子育てセンター B コミュニティセンター C 放課後子ども教室
D 保育所等の公開保育 E 保育所等の園庭開放 F どれも知らない
G その他（ ）

【問16】 あなたのまわりの子どもたち（小学生・中学生）は、まわりの大人たちとのあいさつや会話が出来ますか？

- (1)ほとんどできていない (2)あまりできていない (3)どちらとも言えない
(4)かなりできている (5)とてもよくできている

【問17】 あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち（小学生・中学生）はどのくらい参加していますか？

- (1)ほとんど参加していない (2)あまり参加していない (3)どちらとも言えない
(4)かなり参加している (5)とてもよく参加している

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問18】 あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

=====<<環境と経済について>>=====

【問19】 日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していますか？

- (1)まったくしていない (2)していない (3)分らない (4)している (5)とてもしている

【問20】 豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思えますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

=====<<健康と運動について>>=====

【問21】 あなたは現在、自分が健康だと思えますか？

- (1)まったく思わない (2)思わない (3)思う (4)とてもそう思う

【問22】 あなたは健康維持・増進のために運動（1日30分以上）をしていますか？

- (1)ほぼ毎日している (2)週に3日以上している (3)週に2日している
(4)週に1日以下 (5)していない

【問23】 【問22】の回答で①～④を選択した方にお尋ねします。その運動はどのくらい継続されていますか？

- (1)1年以上 (2)6か月～1年未満 (3)3か月～6か月未満 (4)3か月未満

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

【問27】 あなたは、日常生活で移動するとき、**主に**どの手段で移動しますか?利用される**頻度の高いものから3つ**選んで記号を書いてください。

回答記入欄		
最も頻度が高い: [____]	2番目に頻度が高い: [____]	3番目に頻度が高い: [____]
(1) 徒歩	(2) 自転車	(3) バイク
(5) 福祉タクシー	(6) タクシー	(7) 鉄道
(9) マイカー	(10) その他 ()	(4) 家族や知人の送迎
		(8) バス

【問28】 あなたは**大阪方面へ**移動する際、**主に**どの交通手段を用いて移動しますか?**当てはまるもの1つ**に○をつけてください。

(1) 大阪方面へは行かない (2) 家族や知人の送迎 (3) 特急バス
(4) 飛行機 (5) 鉄道 (6) マイカー (7) その他 ()

【問29】 あなたは**東京方面へ**移動する際、**主に**どの交通手段を用いて移動しますか?**当てはまるもの1つ**に○をつけてください。

(1) 東京方面へは行かない (2) 家族や知人の送迎 (3) 特急バス
(4) 飛行機 (5) 鉄道 (6) マイカー (7) その他 ()

===== <食と農業について> =====

【問30】 あなたは家庭で作る食事に、オーガニック、無農薬、減農薬の食材・食品を使っていますか?

(1) ほとんど使うことはない (2) あまり使うことはない (3) 使うことがある
(4) ときどき使っている (5) いつも使っている

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

【問24】 あなたは1年前と比べて、「歩くこと」などを動かす健康づくりをする回数に変化はありますか?

(1) かなり減った (2) 減った (3) 変わらない (4) 増えた (5) かなり増えた

【問25】 あなたは体を動かす健康づくりとして、どのようなことを実践していますか?**当てはまるものすべて**に○をつけてください。

A 日常生活の中で歩くようにしている (近いところなら歩くなど)
B 歩数計、携帯電話、スマートフォンなどを活用し、自分の歩数を把握する
C ウォーキングやジョギングをする
D 健康ポイント制度に参加する
E 自宅でテレビやDVDに合わせて体操する
F 玄米元気教室に参加する
G 自宅で筋力トレーニング (スクワットなど) をする
H 地域 (若くクラブなど) のグラウンドゴルフなどに参加する
I スポーツ21 やサークル (卓球、太極拳など) に参加する
J 職場でラジオ体操やストレッチをする
K 講師がいる運動教室に参加する
L 運動施設 (プール・ジムなど) に通う
M 農作業で体を動かしている
N その他 ()
O 特に何もしていない

===== <公共交通について> =====

【問26】 あなたは外出の際、移動手段について不便に感じることがありますか?

(1) ほとんど感じたことはない (2) あまり感じたことはない (3) 感じることもある
(4) しばしば感じている (5) いつも感じている

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問31】 【問30】③、④、⑤のいずれかに○をつけた方にお尋ねします。使っているオーガニック、無農薬、減農薬の食材はどのようなものですか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 米 B 大豆 C 麦 D 野菜
E 果物 F ジュース、菓子類 G お茶、コーヒー H 豆腐
I レトルト食品、保存食品 J その他 ()

===== <地域の歴史、伝統、文化芸術> =====

【問32】 あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問33】 あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 自然 (日本海、神鍋高原、コウノトリなど) B 史跡 (出石城跡、但馬国分寺跡など)
C 建物 (温泉寺、出石神社など) D 町並み (城崎温泉、出石城下町など)
E 美術工芸品 (仏像、絵画、工芸品など) F 伝統芸能(だんじり、盆踊り等)
G その他()

【問34】 あなたは、市外の人やマスメディア、SNSなどの評価によって、豊岡の歴史、伝統、文化の素晴らしさに気付かされたことはありますか？

- (1)ほとんどない (2)あまりない (3)たまにある (4)しばしばある (5)とてもよくある

【問35】 あなたは、豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思えますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問36】 あなたは、一流のアーティストが創作する舞台芸術や芸術作品など、質の高い文化芸術に気軽に触れられる機会が多いかと思えますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問37】 あなたは、豊岡市で活動するアーティストやクリエイターを応援したいと思えますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

===== <防災について> =====

【問38】 あなたは、市民総参加訓練に参加していますか？

- (1)一度も参加したことがない (2)たまに参加することがある (3)時々参加している
(4)毎回参加している

【問39】 【問38】で①に回答した方にお尋ねします。参加したことがないのはなぜですか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない
B 市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない
C 仕事や家事、育児、介護、介護、学業などで時間がとれない
D 訓練が役に立つとは思えない
E 関心がない
F あまり人と付き合いたくない
G 転入したばかりでまだ機会がない
H その他 ()

【問40】 あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思えますか？

- (1)まったくとれると思わない (2)あまりとれると思わない (3)ある程度とれると思う
(4)かなりとれると思う (5)とてもしっかりとれると思う

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問41】 あなたは次の防災活動に参加したことがありますか？**当てはまるものすべてに○をつ**けてください。

- A 区で行われる訓練（市民総参加訓練以外）
- B 市政出前講座
- C 区、コミュニティで行われる防災ワークショップ
- D 防災学習会
- E 北但大震災メモリアル写真展
- F 台風23号メモリアル写真展

【問42】 あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか？

- (1)ほとんど感じない (2)あまり感じない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じる (5)とても感じる

【問43】 あなたは災害に備えて次のことを実践していますか？**当てはまるものすべてに○をつ**けてください。

- A 非常持出品を準備している
- B 家具の転倒防止を施している
- C 住宅の前震診断や耐震改修を行っている
- D 市が配布している防災マップを保管している
- E 防災マップを活用し、最寄りの避難場所を確認している
- F 防災マップを活用し、避難ルートを確認している
- G 有事の際、助けが必要な（または自分を助けてくれる）近所の人是否存在を認識している
- H 有事の際の避難行動について、家族と話し合っている（避難場所や連絡の方法など）
- I 防災行政無線戸別受信機の電池交換をしている
- J とよおか防災ネットに登録している
- K その他（ ）

*該当する番号、記号に○をつけてください。
*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問44】 「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか？

- (1)まったく知らなかった
- (2)聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった
- (3)ある程度、どのようなものかも知っていた
- (4)「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた

===== <まづづくりと観光について> =====

【問45】 あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問46】 あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問47】 あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問48】 市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

アンケートは以上です。
ご協力、ありがとうございました。